
土地分類基本調査

近江八幡

5万分の1

国土調査

滋賀県

1982

序 文

国土は、現在および将来における国民のための限られた資源であるとともに、生活及び生産を通ずる諸活動の共通の基盤であります。

本県は琵琶湖をはじめとして豊かな自然環境を有し古くから経済、文化の重要な位置を占めてきました。しかしながら近年における都市化の進展によって自然環境の悪化や土地利用の混乱を生じてきております。こうした状況の中で今後の土地利用は、自然環境の保全を重視し、健康で文化的な生活環境の確保と県土の均衡ある発展を図ることを基本として総合的かつ計画的に進めて行くことが肝要です。総合的な土地利用対策を推進するためには、県土の属性を科学的には握しておくことが必要であり、こうした観点から本県は、昭和55年度から国土調査法に基づく土地分類基本調査を実施しています。昨年度初めてその成果を報告しましたが、本年度は、「近江八幡」の調査成果を印刷するものです。

本調査の実施に当たって御協力いただきました関係者各位に対し、深く謝意を表するとともに、この成果が今後土地利用行政の資料をはじめとして広く皆様に御活用いただけることを期待します。

昭和58年3月

滋賀県企画部長 野々村 清 嗣

ま え が き

1. 本調査は、国土調査法（昭和26年法律第180号）第5条第4項の規定による国土調査の指定を受け、滋賀県が、都道府県土地分類調査作業規程に基づいて実施したものである。
2. 本調査は、土地の自然的条件のうち、土地の基本的性格を形成している地形、表層地質、土壌の三つの要素を基礎とし、これに傾斜区分、水系・谷密度起伏量および土地利用現況を加味し、その成果を相互に有機的に組合せることによって科学的な土地利用の基礎資料を提供するものである。
3. 本調査の成果は、国土調査法施行令第2条第1項第4号の2の規定による土地分類基本調査図および土地分類基本調査簿である。
4. 調査機関および調査担当者は次のとおりである。

指 導 国 土 庁 土 地 局 国 土 調 査 課

総 括 滋 賀 県 企 画 部 土 地 対 策 課

地形分類調査（傾斜区分、水系・谷密度、起伏量の各調査を含む）

滋賀大学教育学部 教 授 小 林 健 太 郎

表層地質調査 滋賀大学教育学部 教 授 立 川 正 久
滋賀地学研究会

土 壌 調 査 滋賀県農業試験場 専 門 員 沢 重 孝
主 査 波 部 恒 昭
技 師 永 井 嘉 和

滋賀県森林セスター 林業専門技術員 中 島 宏 三

土地利用現況調査 滋賀県農業試験場 専 門 員 沢 重 孝
主 査 波 部 恒 昭
技 師 永 井 嘉 和

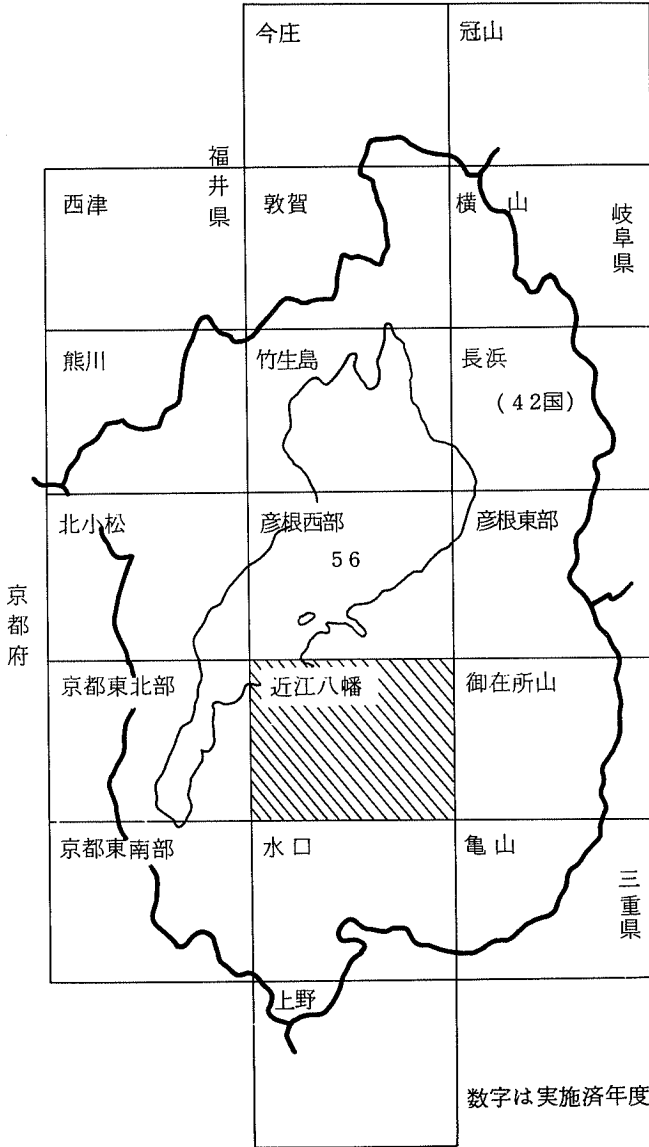
滋賀県森林センター 林業専門技術員 中 島 宏 三

目 次

序 文

I 地 域 の 概 要	3
1 位置および行政区域	3
2 地域の概要	5
II 地 形 分 類	21
III 表 層 地 質	33
IV 土 壤	43
1 林地土壌	43
2 農地土壌	51
V 土 地 利 用 現 況	73

位 置 図



I 地 域 の 概 要

I 地域の概要

1 位置および行政区画

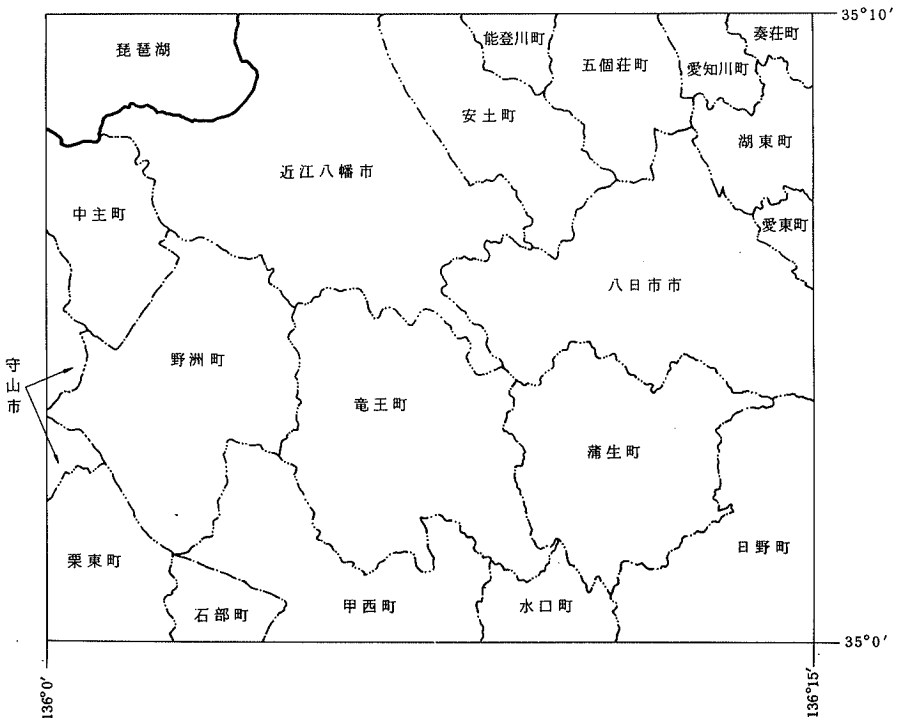
1-1(1) 位置

「近江八幡」図幅は、滋賀県の中央に位置し、経緯度では、東経 $136^{\circ}00'$ ～ $136^{\circ}15'$ 、北緯 $35^{\circ}00'$ ～ $35^{\circ}10'$ の範囲内である。なお、本図幅面積は約 421km^2 であり、うち琵琶湖を除いた陸地部分は約 406km^2 である。

1-1(2) 行政区画

本図幅に含まれる市町村は、第1図のとおり、蒲生郡蒲生町・竜王町の全域および近江八幡市、八日市市、守山市、栗太郡栗東町野洲郡野洲町・中主町、甲賀郡石部町、甲西町、水口町、蒲生郡安土町・日野町、神崎郡能登川町・五個荘町、愛知郡愛知川町・秦荘町・湖東町・愛東町の各一部の3市16町である。

第1図 位置および行政区画



第 1 表 市町村別面積

区分 市町村名	図幅内面積		市町村全 面積 (B)	(A) / (B)
	実数 (A)	構成		
近江八幡市	6 4.9 5 km ²	1 5.4 %	7 7.5 1 km ²	8 3.8 %
八日市市	4 8.9 2	1 1.6	5 3.1 9	9 2.0
野洲町	3 9.5 3	9.4	4 0.4 3	9 7.8
竜王町	4 4.5 6	1 0.6	4 4.5 6	1 0 0.0
蒲生町	3 4.7 7	8.2	3 4.7 7	1 0 0.0
安土町	2 1.3 4	5.1	2 4.5 4	8 7.0
能登川町	4.2 6	1.0	3 1.2 5	1 3.6
五箇荘町	1 5.3 9	3.6	1 6.3 6	9 4.1
愛知川町	5.7 2	1.4	1 2.9 9	4 4.0
秦荘町	3.2 6	0.8	2 5.0 3	1 3.0
湖東町	1 1.0 0	2.6	2 6.3 5	4 1.7
愛東町	3.1 7	0.7	4 1.5 5	7.6
日野町	2 8.1 0	6.7	1 1 8.1 3	2 3.8
水口町	8.2 6	2.0	6 8.7 7	1 2.0
甲西町	2 7.1 2	6.4	5 5.2 8	4 9.6
石部町	6.1 6	1.5	1 3.2 8	4 6.4
栗東町	1 5.5 3	3.7	5 3.0 5	2 9.3
守山市	5.7 4	1.4	4 3.8 8	1 3.1
中主町	1 8.2 0	4.3	2 0.8 2	8 7.4
小計	4 0 5.9 8	9 6.4	8 0 1.7 4	5 0.6
琵琶湖	1 5.2 9	3.6	—	—
合計	4 2 1.2 7	1 0 0.0	—	—

資料：建設省国土地理院「昭和56年全国都道府県市区町村別面積調」（昭和56年10月1日現在）

（注） 図幅内面積はプラニメータにより5万分の1地形図を計測したものである。

2 地域の概要

2-1(1) 地 勢

本図幅内の地域は、県土のほぼ中央、近江盆地の中心に位置する。

北部地域は、野洲川、日野川、愛知川等県下でも有数の河川の堆積作用によって形成された湖東平野や大中の湖等の干拓地がひろがり、豊かな田園の広がる穀倉地帯を形づくっている。また、目立った山地はなく、^{きぬかさ}織山（標高433m）を最高峰として、長命寺山、^{かく}鶴翼山等、標高200～430m程度の独立した低山が僅かに存在するだけである。

中央から南部にかけての地域は、100～430m程度の丘陵地が広がっているととも、野洲川、日野川によって形成された平野が中央に位置している。

なお、当地域には、琵琶湖の最大の内湖である西の湖も含まれている。

2-1(2) 気 象

本県は、南は伊勢湾、北は若狭湾によって本州で一番狭くなった所に南北に長く位置し、中央には琵琶湖を抱え、四囲は、比良山系、鈴鹿山脈など1000mを越える山々で囲まれるという内陸性盆地の影響を受けて、地域別にかんりの気象の相違が見られる。特に冬期において県北部は積雪の多い日本海型気候となり、比較的温暖な太平洋型気候の県南部との差が著しい。

本図幅内の湖南地域は、比較的温暖多雨な太平洋型気候であり、例年湖国の桜だよりは、ここから始まるといわれている。

気温については、湖東地域の彦根气象台では、平均気温が14°前後であるのに対し、湖南地域の蒲生気象観測所では、13°前後と約1°低い。（蒲生観測所は、昭和54年から観測開始のため、昭和54～56年の平均気温で比較した。）本図幅内においても、北部より南部の方が、若干平均気温が低くなる。また、湖周辺では、琵琶湖の影響で日較差（1日の最高と最低の差）が比較的小さく、湖陸風が現われる特徴がある。

降水量については、北部より南部の方が少なくなっている。

なお、彦根气象台と蒲生観測所の気象概況は第2表のとおりである。

第2表の1 彦根地方気象台気象概況

(位置: 北緯 35° 16.4' 東経 136° 14.6')

区分	月別												平均 (合計)	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
平均気温 (c)	55年	3.4	2.8	6.3	11.3	16.9	22.0	23.7	24.7	21.7	16.6	11.2	4.7	13.8
	56年	1.4	2.7	6.5	11.6	15.8	20.7	26.3	25.4	21.3	15.5	9.0	4.2	13.4
	1941~ 1970年	3.2	3.6	6.5	11.9	17.0	21.3	25.8	27.1	23.0	16.7	11.1	6.0	14.4
平均最高	55年	6.2	5.8	10.0	15.5	21.9	25.6	26.9	27.9	25.2	19.9	15.0	8.1	17.3
気温 (c)	56年	3.9	5.5	10.2	16.2	20.7	24.3	30.4	29.4	25.2	19.6	12.4	7.8	17.1
1941~ 1970年	6.5	7.0	10.6	16.6	21.8	25.3	29.7	31.7	27.1	21.0	15.4	9.6	18.5	
平均最低	55年	0.3	0.2	2.4	7.0	12.2	18.6	21.0	22.4	18.6	13.4	7.8	1.5	10.5
気温 (c)	56年	-1.0	-0.2	2.7	7.4	11.3	17.5	22.9	21.9	17.7	11.6	5.6	0.8	9.9
1941~ 1970年	-0.1	0.1	2.4	7.1	12.2	17.3	21.8	21.8	22.5	18.9	12.3	6.8	2.3	10.3
降水量 (mm)	55年	177	68	151	189	256	171	278	285	176	127	126	129	2,133
	56年	115	101	138	161	181	215	85	118	175	190	91	164	1,734
	1941~ 1970年	112	100	120	133	146	226	218	134	201	128	84	94	1,696
積雪日数 (日)	55年	15	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	34
	56年	28	14	3	-	-	-	-	-	-	-	-	12	57
	1965~ 1980年	17	16	7	-	-	-	-	-	-	-	-	5	45

第2表の2 蒲生観測所気象概況

(位置：北緯35°03.4' 東経136°11.1')

区分	目別												平均 (合計)	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
平均気温 (c)	55年	2.6	1.7	5.3	10.7	16.8	21.5	23.0	23.7	20.4	15.5	10.0	3.7	12.9
	56年	1.0	2.1	6.1	11.3	15.8	20.5	25.1	24.2	19.9	14.1	7.7	3.2	12.6
平均最高 気温 (c)	1941~ 1970年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	55年	6.3	6.0	10.3	15.6	22.0	25.5	27.0	27.4	25.0	20.1	15.8	7.8	17.4
平均最低 気温 (c)	56年	4.7	5.9	10.9	16.5	21.3	24.9	30.0	28.8	24.8	19.7	12.5	8.4	17.4
	1941~ 1970年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均最低 気温 (c)	55年	-1.2	-2.2	0.3	5.2	11.3	17.7	19.6	21.1	16.2	11.2	4.9	-0.2	8.7
	56年	-2.2	-1.8	1.2	5.8	10.2	16.5	21.1	19.9	15.7	9.0	3.3	-1.2	8.1
降水量 (mm)	1941~ 1970年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	55年	83	26	134	184	199	120	285	304	159	128	131	58	1,811
積雪日数 (日)	56年	28	63	111	163	172	113	135	116	132	212	68	72	1,385
	1941~ 1970年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
積雪日数 (日)	55年	15	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	31
	56年	11	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	27
積雪日数 (日)	1965~ 1980年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	55年	15	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	31
積雪日数 (日)	56年	11	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	27
	1965~ 1980年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

資料：彦根地方気象台「滋賀県気象年報」、滋賀県防災会議「滋賀県地域防災計画」
 (注) 蒲生観測所は1979年から観測を開始しているため、従来の平均値はない。

2-(3) 人 口

本図幅内の人口は、「滋賀県地域メッシュ統計報告書(昭和50年国勢調査編)」によれば、昭和50年10月1日現在、206,663人で県全体人口の約21%を占めている。この中では、近江八幡市の50,298人をはじめとして、八日市市の32,798人、野洲町の22,268人とこの3市町で当該地域人口の半数以上となっている。

国勢調査結果に基づいて昭和50年と55年の関係市町村別人口を比べてみると、ほとんどの市町村で増加を示しており、全体で12.6%と県全体の人口増加率9.6%を3%も上まわっている。また、当該地域に関係する19市町のうち9市町が、10%以上の増加率となっている。これは、京阪神への通勤圏にある当該地域で、国鉄東海道本線、同草津線の沿線に住宅開発がすすめられたことによるものであり、特に東海道本線沿いの野洲町では24.2%、安土町では20.0%、草津線沿いの甲西町では35%という高い人口増加率を示している。

第3表 市町村別人口

区分 市町村名	昭和50年図幅内市町村別		昭和50年 市町村別 人口(A)	昭和55年 市町村別 人口(B)	増減率 (B) / (A)
	世帯数	人口			
近江八幡市	12,827	50,298	51,537 ^人	60,516 ^人	17.4%
八日市市	8,550	32,798	34,653	37,776	9.0
野洲町	5,590	22,268	22,268	27,664	24.2
竜王町	2,013	9,301	9,301	10,396	11.8
蒲生町	2,007	8,852	8,852	9,636	8.9
安土町	1,943	8,322	8,550	10,256	20.0
能登川町	159	656	16,815	19,750	17.5
五箇荘町	2,125	8,505	9,002	9,378	4.2
愛知川町	807	3,146	8,943	9,072	1.4
秦荘町	466	1,925	8,073	7,962	△1.4
湖東町	1,305	5,848	9,798	9,508	△3.0
愛東町	248	1,090	5,740	5,775	0.6

区分 市町村名	昭和50年図幅内市町村別		昭和50年 市町村別 人口(A)	昭和55年 市町村別 人口(B)	増加率 (B) / (A)
	世帯数	人口			
日野町	2,478	9,907	20,913	21,680	3.7%
水口町	196	925	25,853	27,471	6.3
甲西町	2,668	10,306	17,747	24,024	35.4
石部町	1,210	4,983	7,586	8,705	14.8
栗東町	3,205	12,571	32,496	37,033	14.0
守山市	1,646	6,448	41,439	46,763	12.8
中主町	1,791	8,514	10,245	10,480	2.3
計	51,234	206,663	349,811	393,845	12.6
滋賀県	—	—	985,621	1,079,898	9.6

資料：昭和50年、55年国勢調査、滋賀県企画部「滋賀県地域メッシュ統計報告書（昭和50年国勢調査編）」

第4表 昭和50年地域メッシュ別人口（単位：人）

					9	490	98	322			196	175	161	3	574	1003	768	831	1151	297
					285			157			681	137	301	177	546	1495	333	944	991	103
		18			113	504					1213	212	47	4	1523	730	147	182	469	380
8	20	361									2010	5587	487	924	2182	643	312	477	393	1026
237	14	135	15	826	577	477	5090	1284	471	531	327	37	327	2357	361	707	648	624		
		705	346	519	43	846	129	431	2602	1747	263	616	784	133	3	539	754	39	610	222
		1238	502	186	560	1721	577	1051	1825	793	1921	846	2044	54	592	355	1193	3276	442	511
		1020	1030	524	85	882	268	1155	760	1033	957	214	194	480	683	1060	3223	4186	1187	77
538	439	785	638	653	787	1246	209	564	1164	416	936	255	945	997	1188	1137	1097	972	460	
256	999	919	993	10	73	663	309	591	328	244	485	502	10	452	718	618	544	692	597	
	581	994	544	1639	338	628	186	369	226	322	452	79	581	226	7	188	46	130	636	377
	819	733	3230	374	373	126			203	518	349	64	76	487	297	83	4	83		145
	312	2394	1765	255					152	201	446	741	148	259	614	738	518	400		
	2353	1200	968							476	227	26	423	279	543	124	504	163	361	315
	1662	583	697	102		119			1	419	181	1254	489	92	519	595	22	191	4	478
	904	1362	018	394	405	466				135	323	86	31	199	167	657	37		40	137
	1662	1507	547	434	260	2				284	490		21	36		48	639	3	1	
	1941	1139	519	73	275	655	465			91	1561	297			7	1048	403	251	326	
	1234	291		89	970	230	261	89		125	1248		572	183		383	947	655	1079	1705
	374	844	198		2181	1679	226	3	411	1688	1244		5	76	94		40	102	81	558

資料：滋賀県企画部「滋賀県地域メッシュ報告書（昭和50年国勢調査編）」

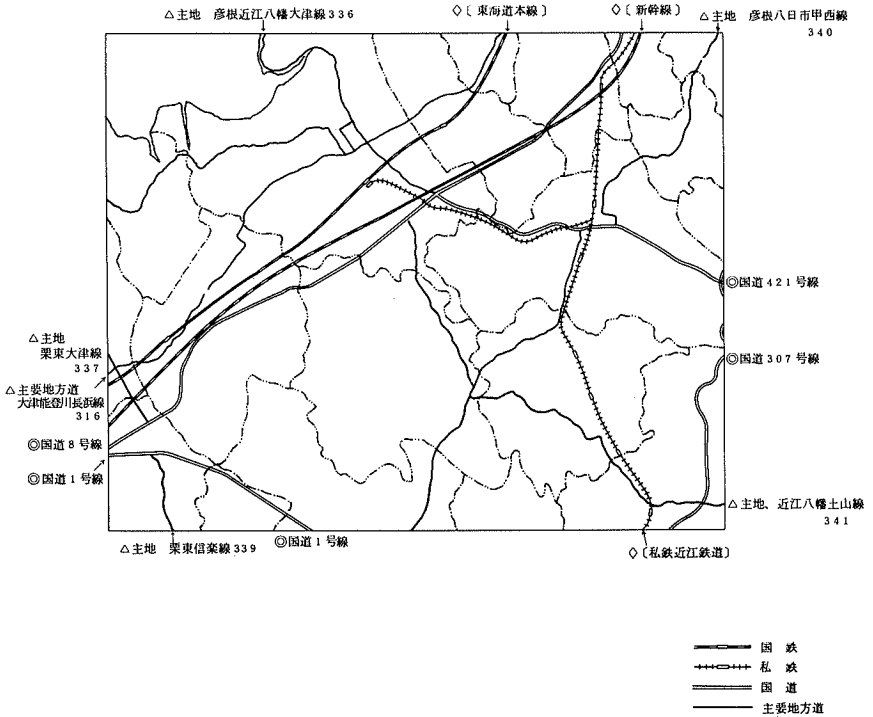
2-(4) 交 通

本図幅内の主要交通施設には、鉄道として、国鉄東海道新幹線、同東海道本線、同草津線、私鉄近江鉄道がある。新幹線、東海道本線は、本図幅を東北から南西に走り、名神高速道路とともに京阪神、中京、京浜の各経済圏を結ぶパイプとして重要な役割を果たしている。

道路は、名神高速道路が東西に走っており、本図幅内には、栗東、竜王、および八日市の3ヶ所にインターチェンジがある。一般道路としては、国道8号線が新幹線と並行して走り、大津、彦根、岐阜方面と結んでいる。又鈴鹿を經由して、中京、京浜の通ずる国道1号線が南西隅を通過しており国道8号線と栗東町で合流している。国道421号線(旧近江八幡員弁線)が三重県へ延びている。

国道307号線が枚方方面へ延びている。また、名神高速道路、国道8号線を軸として主要地方道大津能登川長浜線、同彦根近江八幡大津線、同近江八幡員弁線、同近江八幡土山線、同彦根八日市甲西線、同栗東大津線、同栗東信楽線、その他一般県道が縦横に整備されている。

第2図 主要交通施設



2-(5) 産 業

本県の産業別就業人口の構成比を、昭和55年の国勢調査結果からみると第1次産業11.7%、第2次産業40.0%、第3次産業48.3%であり、これに対して本図幅の関係市町のそれは、各々13.1%、41.8%、45.1%とほぼ全県的な傾向を示している。

第5表 産業別就業人口

(単位：人、%)

産業別 人口 市町村名	昭和55年						昭和50年構成比			
	第1次産業		第2次産業		第3次産業		計	第1次 産業	第2次 産業	第3次 産業
	構成比	構成比	構成比	構成比						
近江八幡市	3,845	13.8	10,707	38.3	13,405	47.9	27,957	21.5	34.8	43.7
八日市市	2,318	12.5	7,479	40.2	8,782	47.3	18,579	18.2	37.3	44.5
野洲町	1,256	9.9	5,317	42.2	6,036	47.9	12,609	17.2	40.9	41.9
竜王町	1,040	18.4	2,893	51.2	1,721	30.4	5,654	36.9	35.7	27.4
蒲生町	1,141	21.8	2,156	41.2	1,938	37.0	5,235	35.0	34.2	30.8
安土町	1,119	22.4	1,665	33.3	2,220	44.3	5,004	30.3	33.0	36.7
能登川町	1,466	15.3	4,011	42.0	4,082	42.7	9,559	24.1	38.2	37.7
五個荘町	614	13.0	2,184	46.3	1,922	40.7	4,720	19.6	42.7	37.7
愛知川町	588	13.2	1,965	44.1	1,903	42.7	4,456	20.4	39.0	40.6
秦荘町	962	22.8	1,744	41.4	1,511	35.8	4,217	36.5	33.4	30.1
湖東町	993	19.8	2,402	47.9	1,620	32.3	5,015	32.3	41.7	26.0
愛東町	824	25.6	1,365	42.5	1,026	31.9	3,215	34.4	36.9	28.7
日野町	2,250	19.7	4,418	38.7	4,744	41.6	11,412	33.3	31.2	35.5
水口町	1,163	8.7	5,384	40.3	6,800	51.0	13,347	14.1	38.6	47.3
甲西町	457	4.1	6,379	56.9	4,383	39.0	11,219	8.1	57.4	34.5
石部町	135	3.4	2,102	52.8	1,741	43.8	3,978	5.3	53.3	41.4
栗東町	1,117	6.5	6,568	37.9	9,624	55.6	17,309	9.3	39.1	51.6
守山市	2,488	11.2	9,096	41.0	10,600	47.8	22,184	16.6	42.7	40.7
中主町	1,293	23.4	2,115	38.3	2,116	38.3	5,524	34.6	33.2	32.2
計	25,069	13.1	79,950	41.8	86,174	45.1	191,193	21.0	38.8	40.2
滋賀県	60,961	11.7	208,216	40.0	251,034	48.3	520,211	18.0	38.7	43.3

資料：昭和50年、55年国勢調査

(注) 「分類不能」は、第3次産業に含めた。

① 農林水産業

本図幅内の地域は、湖東平野および湖南平野の穀倉地帯が広がり、土地改良事業も広範囲に実施されている。

この地域では、「近江米」で知られる稲作が基幹作物であるが、近年水田利用再編対策により麦・大豆等の穀物が生産されており、地域的には、野菜、花き等が栽培や肉用牛、豚の飼育も行われている。林業については、本図幅内では目立ったものはないが、湖東山地および湖南山地を含む図幅内市町では、スギ、ヒノキ、マツ等の素材生産が行われている。その他竹材、しいたけの生産も行われている。

水産業については、琵琶湖漁業の他淡水貝珠の養殖も行われている。

第 6 表 農 林 水 産 業

区分 市町村名	農 業							林 業 面 積 (ha)	漁獲量 (琵琶湖) (t)
	農 家 数(戸)	経営耕地 面積(ha)	農業粗生産額(百万円)						
			米	野 菜	畜 産	その他			
近江八幡市	3,768	3,403	6,414	4,371	592	1,137	314	1,480	1,151.1
八日市市	2,381	2,344	4,714	2,961	536	898	319	970	—
野 洲 町	1,532	1,227	2,066	1,595	215	143	113	1,270	—
竜 王 町	1,318	1,318	2,893	1,534	135	1,094	130	1,593	—
蒲 生 町	1,336	1,220	1,952	1,490	130	276	56	1,003	—
安 土 町	1,038	1,210	3,372	1,516	227	1,519	110	480	6.3
能登川町	1,521	1,616	2,994	2,192	445	229	128	261	126.2
五箇荘町	826	526	1,179	685	63	382	49	510	—
愛知川町	899	615	1,082	814	84	142	42	27	—
秦 荘 町	1,249	964	1,605	1,181	149	149	126	940	—
湖 東 町	1,367	1,167	1,684	1,320	156	131	77	710	—
愛 東 町	919	1,006	1,795	985	252	368	190	2,373	—
日 野 町	2,672	2,201	4,014	2,372	199	1,305	138	6,289	—
水 口 町	1,925	1,605	3,131	1,910	279	501	441	2,840	—
甲 西 町	1,071	726	1,328	805	104	159	260	3,068	—

区分 市町村名	農 業							林 野 面 積 (ha)	漁獲量 (琵琶湖) (t)
	農 家 数(戸)	経営耕地 面積(ha)	農業粗生産額(百万円)						
			米	野 菜	畜 産	その他			
石 部 町	322	161	235	184	28	14	9	762	—
栗 東 町	1,797	1,053	1,620	1,244	226	57	93	2,450	—
守 山 市	3,101	2,260	4,449	3,001	706	178	564	51	216.2
中 主 町	1,418	1,309	2,471	1,667	567	125	112	35	35.3
計	30,460	25,931	48,998	31,827	5,093	8,807	3,271	27,112	1,535.1
滋 賀 県	76,942	57,260	101,065	67,189	11,207	14,502	8,167	207,461	5,189.3

資料：農家数、経営耕地面積 — 滋賀県企画部「1980年世界農林業センサス結果報告書」(昭和55年2月1日現在)

農業粗生産額、林野面積、漁獲量 — 近畿農政局滋賀統計事務所編集、滋賀農林統計協会発行「滋賀県農林水産統計年報(昭和55年次)」

② 工 業

本図幅内の事業所数は、全县の15.6%を占めている。

本県では、昭和30年代後半以降新規立地が急速に進展し、昭和40年代の高度経済期にそのピークを示した。図幅全域に亘って工場が立地しているが、湖南の守山市、野洲町周辺、湖東中部の国道8号線沿いおよび八日市市日野町周辺、甲賀地域の国道1号線沿いおよび甲西町の丘陵地に企業集積が見られる。出荷額から全般的にみると電気機器、一般機器、化学工業の割合が高いが、湖東・中部地域では、輸送機器、食料品、ゴム製品の比率も高くなっており、又、甲賀地域では窯業・土石の比率が高くなっている。

又、この図幅内の地場産業としては、近江八幡のかわら、よし製品、革靴、日野の薬、および湖東の麻織物が挙げられる。

第7表 地域メッシュ別事業所数

						2		5				2		3	10	6	9	22	3						
						1				9	1	5	1	9	16	8	20	2	8						
						2	2			4				9	8	1	3	4	7						
						1	1			18	47	2	3	20	4		1	7	11	3	12	5	6		
						4	2	26	7	2	1	3		1		1	2	7	5	1					
						5	1	1		2	1	1	3	1	8	4							4		
13						6	1			2	1	5	4	10	3							14	15	3	4
5	6	2				3			3	2	1	2		2		1	10	19	27	7				1	
4	1	8	1			3	1		6	4	2	12		2	8	3	7	12	7	1					
		3	4	6		1	3	1	3		1	1	3		1	2	2	5	4	4					
		2		1	10	3	4		2	1	7	5	3		3		3	2	2	1					
		3	9	7	3	4				3	3	2	1		2	8									
		5	13	12						1	2	3	6		1	4	2	7	1						
		8	8	10							1				1	3	1	1	2					1	
		9	2	7	1		1				2	1	11	3	2	14	4							6	
		5	12				1					2			1		5							1	
		14	9	5	1		5				2	5			3			4						1	
		8	3	6	4	2	4	3				44	3					2						1	
		3				11	7	4	2				12	1	6			2	1	3	8			13	
		4	3	1		9	12	4		3			6		1			1	1	1	1			2	

事業所数	
本図幅内	全 県
1,269	8,143

資料：滋賀県企画部「滋賀県地域メッシュ統計報告書（昭和55年工業統計調査編）」

③ 商 業

本図幅内の商店数は、全県の約20%を占めている。

本地域の商業圏は、湖南の守山市圏、湖東・中部の近江八幡市圏、八日市市圏および甲賀の水口町圏に分かれる。

小売業においては、既存の商業圏周辺および湖南の人口集中地区への中・大規模小売店舗の進展が目立つ。

第8表 地域メッシュ別商店数

					4	2	1			2					8	18	13	10	23	8
				6		1			3	1	1	1	24	39	3	11	11	6		
					1	6			37	3			24	15	2			3		3
			2				17	251	8	18	73	15	2	10	13	14	3	16	4	8
3		3			10	4	6	172	37	2		1	2				8	8	11	
	8	3	6		8	1	5	130	12	3	7	15				12			4	1
11	5	1	3	59	5	4	28	4	25	15	69	11	6	8	230	138		16	3	
4	29	4		17	2	26	2	8	43	2	3	7	16	22	117	182	36	1	7	
10	11	5	6	7	11	19	3	15	8	14	17	4	13	17	22	10	21	4	9	3
1	10	3	13			6	12	6		1	3	4		2	12	2	3	4	10	
4	7	21	6	7	4	2	6	2	7	3	1							15	3	
7	2	31	2	3				1	4	2		1	10	3						
13	49	115	2					2	5	11	19	1	2	14	21	6	4			
29	20	16							6		1	2		13		4		4	3	
15		8			2	1			9	1	24	10		15	7					17
8	35		8	3	1				2	3				2	5	3				
52	63	11	3		6					5					1	18				
88	15	10	3	1	12	4				83	2				20			1	10	
6	2			26	2		1			23		4	2		4	12	37	21	97	
6	6	4		69	29	13		4	19	16		1	1				1	5	2	

商 店 数	
本図幅内	全 県
4,273	21,474

資料：滋賀県企画部「滋賀県地域メッシュ統計報告書（昭和54年商業統計調査編）」

④ 観 光

本図幅内では、万葉集の相聞歌にうたわれた蒲生野をはじめ、安土城跡、長命寺、太郎坊、観音正寺など歴史的遺産である文化財・社寺が多数存在する。また、琵琶湖八景の一つである春色・安土八幡の水郷も含まれている。スポーツ・レクリエーションでは、約460haの広大な土地に多目的な施設を有する県立希望ヶ丘公園をはじめ、佐波江水泳場などがある。ゴルフ場は、6ヶ所含まれている。

なお、本図幅内では、鉄道・道路など交通にも恵まれた地域であり、昭和56年

に本図幅内の観光地を訪れた観光者数は、3,467,000人で、本県観光者総数27,407,200人のうち約13%となっている。

第9表 本図幅内の主な観光地と観光者数

(単位：人)

観光地名	市町村名	観 光 者 数			主な観光目的
		日 帰 り	宿 泊	計	
長 命 寺	近江八幡市	534,100	11,600	545,700	水泳、舟遊び、社寺、文化財
八 幡 山	"	56,800	—	56,800	社寺、文化財
佐 波 江 水 泳 場	"	5,000	5,000	10,000	水泳、舟遊び、キャンプ
水 郷	"	14,200	—	14,200	舟遊び
太 郎 坊 瓦 屋 寺	八日市市	530,500	900	531,400	社寺、文化財
延 命 公 園	"	116,800	—	116,800	ハイキング、一般行楽
三 上 山	野 洲 町	4,400	—	4,400	登山、ハイキング
御 上 神 社	"	45,000	—	45,000	社寺、文化財
希 望 ヶ 丘 文 化 公 園	竜 王 町	984,100	145,500	1,129,600	キャンプ、水泳、舟遊び
苗 村 神 社	"	35,500	—	35,500	社寺、文化財、行催事
ス ケ ー ト リ ン グ	"	99,400	—	99,400	スケート
石 塔 寺	蒲 生 町	3,300	—	3,300	社寺、文化財
安 土 城 跡	安 土 町	402,900	—	402,900	"
観 音 正 寺	"	53,500	—	53,500	"
近江風土記 の丘資料館	"	25,400	—	25,400	文化財
猪子山北向 十一面観音	能 登 川 町	10,100	—	10,100	社寺、文化財、行催事

観光地名	市町村名	観光者数			主な観光目的
		日帰り	宿泊	計	
石馬寺	五ヶ荘町	1,900	—	1,900	社寺、文化財
豊国神社	湖東町	24,500	—	24,500	社寺、行催事
野洲川中流	甲西町	7,400	—	7,400	釣、ゴルフ
兵主大社	中主町	40,000	—	40,000	社寺、文化財
ゴルフ場	図幅内で6ヶ所	220,800	—	220,800	ゴルフ
その他の観光地	—	86,000	2,400	88,400	—
計	—	3,301,600	165,400	3,467,000	—
滋賀県	—	25,031,300	2,375,900	27,407,200	—

資料：滋賀県観光物産課「昭和56年滋賀県観光地観光者数統計調査書」

II 地 形 分 類

Ⅱ 地形分類

1 地形の概要

「近江八幡」図幅地域は近江盆地の中央部や、南寄りに位置し、図幅の北西隅には琵琶湖南東部の一部がみえている。この水域の東方から南東方にかけては湖東平野を構成する沖積低地や干拓地がひろがり、南方には湖南平野の一部に相当する野洲川の三角州と扇状地が続いている。

図幅の中央部一帯には^{きぬがさ}織（観音寺）山、安土山、鶴翼山、奥島（長命寺）山、岡山、箕作山、瓶割山、雪野山、布施山、鏡山、妙光寺山、三上山、十二坊など、十指に余る孤立丘としての小山地在散在しており、これらを総称して湖東島状山地と呼んでいる。

一方、図幅の南部には古琵琶湖層群によって構成される丘陵地が展開し、佐久良川、日野川、野洲川など、図幅東方の鈴鹿山脈から流出する河川によって分断されて、それぞれ布引山（八日市）丘陵、日野丘陵、水口丘陵、栗東丘陵と呼ばれている。これらの丘陵の縁辺部には上位段丘が付着し、河谷には下位段丘が形成されている。下位段丘のうち最も大きな面積を有するのは八日市台地で、図幅の北東部にあたる愛知川の南北両岸にひろがっている。

2 地形区の区分

本図幅の地形分類は、地形図および国土基本図の読図、空中写真の判読、および現地調査の成果を総合的に比較検討することによって行い、海拔高度、起伏量、谷密度、傾斜分布、地形面の形状と性質、構成物質、地域的なまとまりなどを基準にして、下表のように地形区を区分した。

I 山 地	a 湖東島状山地	1 ^{きぬがさ} 織（観音寺）山
		2 安土山
		3 鶴翼山
		4 奥島（長命寺）山
		5 岡 山
		6 箕作山
		7 瓶割山

		8 雪野山 9 布施山 10 鏡山 11 妙光寺山 12 三上山 13 菩提寺山 14 岩根山(十二坊)
II 丘陵地	a 湖東丘陵 b 湖南丘陵	1 布引山(八日市)丘陵 2 日野丘陵 3 水口丘陵 1 栗東丘陵
III 段丘	a 上位段丘	1 布引山段丘 2 大塚段丘 3 安部居段丘 4 山本段丘 5 山之上段丘 6 山面段丘
	b 下位段丘	1 八日市台地 2 中在寺段丘 3 日野段丘
IV 低地	a 湖東平野	1 愛知川扇状地 2 佐久良川・日野川扇状地 3 愛知川三角州 4 日野川三角州 5 干拓地
	b 湖南平野	1 野洲川河谷 2 野洲川扇状地 3 野洲川三角州 4 干拓地

3 地形区各論

I 山地

湖東島状山地 (I a)

湖東平野の中央部に散在する島状の小山を総称して湖東島状山地と呼び、本図幅中には^{きねがさ}織山(観音寺山、433m)、安土山(190m)、鶴翼山(284m)、奥島山の南西端に当る長命寺山(333m)、岡山(188m)、箕作山(370m)、瓶割山(240m)、雪野山(309m)、布施山(玉緒山、241m)、鏡山(385m)、妙光寺山(270m)、三上山(432m)、菩提寺山(453m)、岩根山(十二坊、406m)が含まれている。これらの島状山地は湖東流紋岩や花崗岩などで構成されており、かつてこの地域で侵食作用が活発であった時代に、その侵食から取り残された残丘である。いずれも30度前後の急斜面が山麓から山頂や稜線まで続いており、山頂部にも緩斜面はほとんどみられない。山腹斜面を刻む谷は多いが、いずれも小規模短小なもののばかりで、深く刻み込まれた谷筋は存在しない。^{きねがさ}織山は湖東島状山地の最高峰で、山頂から北方へ向っては南北方向に尾根筋が伸び、途中に地獄越の鞍部がある。山頂以南では稜線が南東方と南西方に派出し、両者の交点付近南側には観音正寺がある。^{きねがさ}織山の西方に続く小山が安土山で、織田信長が山頂に安土城を築いたことで知られている。かつては山麓を琵琶湖の内湖に取り囲まれ、湖水に突出した半島であった。

近江八幡市街の北方に位置する鶴翼山(八幡山とも呼ばれる)は、東西約1km、南北約3kmの南北に細長い山地で、南部に位置する主峰は30度以上の急斜面で囲まれている。山頂からの眺望に優れ、桃山時代に築かれた八幡城の石垣が残っている。鶴翼山の北西2.5kmに位置する長命寺山は、主稜線が逆U字形を示す奥島山の南西端にあたり、西麓は直接琵琶湖に没して湖岸に磯を形成している。岡山は鶴翼山の西方3kmの湖岸に位置する小山で、東西0.8km、南北0.5kmにすぎないが、かつてはその南方に水茎内湖をかかえていたことから、^{みずくき}水茎の岡とも呼ばれている。

八日市市街の北西に聳える箕作山は、ひょうたん形の平面形を有し、主峰は南半部にある。主峰の南斜面は急峻で、最大傾斜43度を測る急斜面には原始信仰の磐^{いわ}座をそのまま伝えている太郎坊宮が祀られている。

図幅中央部の瓶割山もまたひょうたん型の小山であるが、北麓に建設された近江八幡工業団地の造成によって北東部が大きく削り取られ、人工的改変が著しい。

瓶割山の南方に位置し、北北西～南々東方向に細長く伸びている雪野山は、湖東平野南部を東西に分ける屏風のような存在で、南西方には日野川中流域の沖積低地が展開する一方、北東方には八日市台地の末端にあたる蒲生野がひろがっている。布施山は布引山丘陵の西端を限る小山地で、北麓には山麓緩斜面を、南麓には崖錐を付着させている。

本図幅の南西部には鏡山、妙光寺山、三上山、菩提寺山、岩根山が相互に隣接して密集しており、これらの中では三上山が最も高い。三上山は均整のとれた美しい山容から「近江富士」ともいわれているが、火山ではなく、古生層の接触変質岩からなる残丘である。頂上は雄山と雌山に分れ、今も巨大な磐座^{いわくら}があって、古代以来信仰の対象にされたきた神体山である。三上山の東方で南北に連なっている鏡山と岩根山は共に花崗岩で構成され、花崗岩山地特有の細かい谷が山腹一面に刻み込まれ、谷密度を著しく高くしている。このため山麓には風化した土砂が大量に押し流されて河谷を埋め、善光寺蹟、妙光寺蹟、菩提寺蹟などの不毛な土砂堆積地を形成する一方、そこから流出する河川は典型的な天井川を発達させた。

II 丘陵地

湖東丘陵（II a）

鈴鹿山脈の西麓にひろがる広大な丘陵地を総称して湖東丘陵という。この丘陵地は鮮新世末期から更新世にかけて古琵琶湖の湖底に堆積した粘土や砂礫層が地殻変動を受けて変位し、古琵琶湖の水位が低下したことによって干陸化した結果形成されたもので、その構成層は古琵琶層群と呼ばれている。この丘陵地は鈴鹿山脈から流出する佐久良川と日野川によって三分され、北から順に布引山（八日市）丘陵、日野丘陵、水口丘陵と名付けられている。丘陵地の標高は100～300mで、起伏量はそれほど大きくないが、樹枝状の開析谷が複雑に刻み込まれて谷密度はかなり高い。谷底には細長い谷底平野が形成され、谷田が開かれている。地質的に土工が容易であり、近年になって道路網の整備が進んできたため、工業団地や住宅団地、ゴルフ場などの開発が盛んに行われ、人工改変地が多くなってきている。

布引山丘陵は永源寺町甲津畑付近から西方へ伸びる東西14km余、南北2km前後の細長い丘陵で、本図幅にはその西半部が含まれている。本図幅中の最高地点は標高270mで、東半部では南北方向の開析谷が卓越しているのに対し、西半部では東西方向の谷が丘陵を縦断するように侵入しているのが対照的である。これは西半

部の稜線部に西方へ向って緩斜する上位段丘面が広く残されていることによるものである。

佐久良川と日野川にはさまれている日野丘陵は、竜王山西麓の日野町西明寺付近から西方へ伸び、東西約1.1 km、南北約2 kmを測る。本図幅に含まれるのはその西半部で、最高点の標高は208 m。開析谷はいずれも短小で、谷底の勾配も相対的に急なものが多い。丘陵の南北両側と西端には段丘を付着させている。

湖東丘陵中最大の規模を有する水口丘陵は、土山町西部から竜王町南西部まで東西約2.4 kmに達し、南北幅も最大約8 kmに及ぶ。本図幅にはその北西部が含まれており、最高点の標高209 mは丘陵地の面積の割に低い。水口丘陵の最大の特色は、南北両側から極めて狭長な開析谷が奥深く侵入して樹枝状の支谷を複雑に展開していることである。

湖南丘陵(Ⅲb)

野洲川以南の丘陵地を湖南丘陵と総称するが、本図幅に含まれるのはその北端に位置する栗東丘陵の一部のみである。栗東丘陵は信楽山地の北端に付着し、丘陵内に古生層の低山性小山地を包み込んでいる。

Ⅲ 段 丘

上位段丘(Ⅲa)

近江盆地における段丘面の区分と対比は、これまでも多くの人々によって行われてきたが、それらはいずれもそれぞれのフィールドに即した部分的なもので、全域を統一的に把握した成果は未完である。通常は上位(高位)、中位、下位(低位)の三面に分け、それらを更に細区分した結果が報告されている訳であるが、研究者によって、またフィールドによって上位面と中位面の区分と対比が異っているのが現状である。そこで本地形分類では、高位もしくは旧期の形成になる段丘を上位段丘として一括し、直接的に現在につらなる河川によって形成された低位もしくは新期の段丘を下位段丘とすることにした。

本図幅中にみられる上位段丘はいずれも丘陵地の先端部または縁辺部にみられる。布引山丘陵の西部にひろがる布引山段丘は、布引山東方から近江鉄道本線付近まで、約22/1,000の勾配で西北西へ傾斜する段丘面を展開している。段丘面の上限高度は240~250 m付近にあり、205~220 m、160~180 m、130~150 mなどの高度に階段状の平坦面を認めることができる。

本図幅東方の鳥井平から安部居まで、日野丘陵の北辺を縁取っている安部居段丘は、その西端付近を本図幅中に見せるのみであるが、安部居集落東方の段丘崖は比高 20 m にも達している。この段丘面はここから中在寺南方まで約 $35/1,000$ という急勾配で低下し、標高 160 m 付近で下位段丘の下に没している。

日野丘陵先端に付着する大塚段丘は、日野丘陵の北辺に接する野出南方から綺田南方までの間では、丘陵地から流出する小河谷に刻まれてやゝ起伏の多い断片的な段丘面になっているが、日野丘陵先端の大塚付近では $12/1,000$ の勾配で西北西に緩斜する平坦面を残している。

山本段丘は日野丘陵の南辺にひろがり、下位段丘との間を比高 10 m 前後の段丘崖が縁取っている。段丘面は浅い谷に刻まれて若干の凹凸を示しているが、全体としては勾配約 $17/1,000$ で西方へ傾斜している。

竜王町南部の水口丘陵先端部に形成された山之上段丘は、丘陵地から伸びてきた開析谷によって切断されており、段丘面もまた浅い谷に刻まれてやゝ起伏が多い。この段丘面の上限高度は 160 m 付近で、ここから北に向って $32/1,000$ という本図幅中の段丘面の中では安部居段丘に次ぐ強い勾配で傾斜して、標高 120 m 付近で沖積層の下に沈み込んでいる。

山面段丘は鏡山の北東麓に付着する丘陵地の先端に形成されたものであるが、現在では段丘面の人口改変が著しくほとんど原地形をとどめていない。第二次世界大戦前に測量された地形図によると段丘面は起伏に富み、この点では丘陵地に近い状態にある。この段丘の北端に竜王町鏡の旧集落が立地し、中世の城跡も残されている。

下位段丘(Ⅲb)

本図幅中最大の面積を有する下位段丘は愛知川の南北両岸にひろがる八日市台地で、近江盆地全体を通じて最も面積が大きい段丘面である。これは愛知川によって形成された旧扇状地が鈴鹿山脈の隆起にともなう基盤の傾動運動によって段丘化したもので、段丘面はよく保存されており、谷口から離れるにつれて愛知川河谷の扇状地面との比高を減じている。

愛知川北岸の段丘崖は、谷口に近い愛東町^{との}外集落背後で比高 20 m を測るが、本図幅東端の鯉江付近では 7 m 前後となり、湖東町小田刈集落の中で比高 1 m 未満に減じて消滅している。段丘面は愛東町小倉集落北方の標高 200 m 付近にはじまり、

北西方へ向って緩斜して湖東町清水の標高125m付近で新期扇状地に移行している。この間の平均勾配は10/1000で、地表は原面の開折がきわめて軽微で、わずかな起伏が波状にみられるにすぎない。

一方愛知川南岸の段丘崖は、谷口の永源寺町山上で比高約15m、本図幅東端の八日市市御園付近で約5mとなり、八日市市街地の北部で新期扇状地におおわれて消滅している。段丘面の標高は本図幅の東端で165m、八日市市街地で130mを測り、この間の平均勾配は7/1000で愛知川北岸の段丘面より一層緩傾斜である。この段丘面は、愛知川沿いでは八日市市街地北部で愛知川の新期堆積層の下に没しているが、箕作山にさえぎられて愛知川の新期堆積が及ばなかった八日市西部ではさらに西方までのびており、この地区は古来蒲生野と呼ばれてきた。蒲生野の平均勾配は5/1000と一層緩くなり、瓶割山の南北で三角州に移行している。

この八日市台地に比べるとはるかに小さなものではあるが、佐久良川や日野川の沿岸にも下位段丘が形成されている。このうち佐久良川沿岸の中在寺段丘は、南岸では野出西方まで比高2~3mながらも明瞭な段丘崖をもって発達しているが、北岸では布引山丘陵の南麓に付着する段丘面が蓮花寺と北脇の間で扇状地に漸移している。一方、日野川北岸の日野段丘は南北幅2kmに達する広い扇状地性の段丘面が東西約10kmにわたって連続するものであるが、本図幅にはその西端が含まれるにすぎず、平均勾配12/1000の段丘面が日野市街西方で扇状地に移行している。

Ⅳ 低 地

湖東平野（Ⅳa）

湖東平野は鈴鹿山脈から北西流して琵琶湖に注ぐ諸河川によって形成された沖積低地で、谷口からは標高100m付近までは扇状地が発達し、湖岸には三角州がひろがって、近江盆地最大の低地になっている。本図幅に含まれるのはその南部で、愛知川扇状地と佐久良川・日野川扇状地、それに日野川下流の三角州が大きな面積を占めている。

愛知川扇状地は谷口から八日市市街東方までは南北両側を八日市台地を限る段丘崖にはさまれて細長く伸びており、谷口部で約0.5kmにすぎなかった幅員は下流部へ向うにつれて少しずつ広くなり、標高130m付近で約2kmとなる。この間の延長は約10km、平均勾配は6/1000である。標高130m付近をすぎると扇状

地は急速にその幅を広げ、ついには下位段丘面をも被覆して広闊な低地を展開させる。この部分では氾濫によって形成された自然堤防状の微高地が御河辺橋付近から扇状地末端まで平地林におおわれて残されている。近年はこの平地林が工場適地に指定され、国道8号線に近い下流部にはいくつかの工場が進出してきている。この自然堤防の背後にはほとんど起伏の認められない平坦地がひろがり、愛知川から取水する用水路に灌漑される水田には条里制土地区画がよく残されている。標高130 m付近から扇端までの平均勾配は5 / 1 0 0 0である。

佐久良川、日野川扇状地は布引山丘陵と水口丘陵にはさまれた河谷を埋積して形成された狭長な扇状地で、両河川の合流点付近で三角州に漸移している。扇状地の平均勾配は6 / 1 0 0 0前後にすぎず、一面に条里制土地区画を残す水田が開かれている。

愛知川三角州は主要部が北方の「彦根西部」図幅にあり、本図幅にはその縁辺部がわずかに含まれているにすぎない。

日野川三角州はその全域が本図幅中に含まれ、最大の地形区になっている。このうち雪野山と鏡山にはさまれた標高95 m以上の地区は、いわゆる自然堤防帯で氾濫原的な性格を有し、自然堤防がよく発達し、水口丘陵北西部から流出する祖父川や善光寺川などは典型的な天井川になっている。竜王町の主要部を占める標高95 ~ 115 mの間の平均勾配は2.5 / 1 0 0 0である。これに対し標高95 m以下湖岸までの間は平均勾配1.7 / 1 0 0 0にすぎなくなり、きわめて平坦な三角州帯になっている。近江八幡市街以東の地区は日野川によって堆積されたのではなく、八日市台地から流出する蛇砂川をはじめとする小河川によって形成された三角州であるが、ここでは地形的一体性を考慮して日野川三角州に含めて区分した。

日野川三角州の先端には、かつては大小の内湖が残されて水郷景観を展開していたが、第二次世界大戦中および戦後の食糧増産政策に沿って相次いで干拓され、今日では西の湖のみが往時の面影をとどめているにすぎない。安土山北半部をとりまく小中の湖干拓地は、昭和18年に着工され、21年に干陸した。総面積は300 haで、芦刈・北原・城東の3集落が入植者によって形成された。西の湖の北にわずかに姿を見せているのが大中の湖干拓地の南西端で、昭和39年に排水を完了した。鶴翼山と長命寺山の間にはさまれた津田内湖干拓地は昭和42~46年に工事が行われた最も新しい干拓地で、耕地面積は151.6 haである。一方、岡山の南方にひ

ろがっていた水葦内湖では、昭和19～24年に総面積213haの干拓地が造成され、入植農家は県下では珍しい散居型集落を形成している。

湖南平野（Ⅳb）

湖南平野は琵琶湖南湖の沿岸に形成された沖積低地を主体とし、そのうちもっとも広い部分を占めるのは野洲川の扇状地と三角州である。本図幅に含まれるのはその東辺と、野洲川河谷の一部のみである。

野洲川河谷は水口丘陵と信楽高原との間に細長くのびる野洲川中流の谷底平野で、本図幅にはその北西端のみが姿を見せている。

野洲川扇状地は石部頭首工付近を扇頂とし、本図幅中では標高95m付近を扇端とする低平な扇状地で、半径は約5kmを測る。扇状地面の平均勾配は4.4/1000にすぎず、近江盆地ではもっとも平坦な扇状地である。このように平坦な扇状地ではあるが、扇状地面には旧河道の帯状凹地や自然堤防の微高地も散見され、前者は右岸の野洲町域に多く残されている。後者の中で注目されるのは栗東町林から手原まで旧東海道に沿って細長くのびるもので、現在はその上に総延長4kmにも達する長大な路村が立地している。これは原初的には野洲川旧流路の微高地に集落が立地したものと考えられるが、現在の形態は、少なくとも江戸時代初頭以来350余年にわたって集落が立地しつづけてきたことによって、かなり大巾に人工的改変を加えられている。

標高95m付近以下湖岸までの間にひろがる野洲川三角州は野洲川の旺盛な土砂堆積によって形成されたもので、本図幅の範囲では自然堤防の発達が著しく、湖岸には幅0.5kmの砂礫堆（砂州）も形成されている。

参 考 文 献

水山高幸・池田碩・大橋健（1975）：近江盆地琵琶湖周辺の地形、建設省近畿地方建設局。

国土庁土地局（1975）：縮尺20万部の1土地分類図（滋賀県）

植村善博（1979）：湖東丘陵の古地理と地形発達史、立命館文学第410～411号。

滋賀県・草津市（1974）：草津市吉田の条里景観遺存地区の歴史地理学的調査報

告。

小林建太郎・高橋誠一（1977）：愛知川扇状地北半部の地形と農業水利、滋賀大学教育学部紀要 — 人文・社会科学 — 第27号。

（滋賀大学教育学部 小林健太郎）

III 表 層 地 質

III 表層地質

概 説

本図幅地域は滋賀県の中央部にあたる。本地域では、愛知川、日野川、野洲川などの旧流路の堆積物を主とする未固結堆積物が約半分の面積を占め、湖東平野の一部を形成している。

半固結堆積物は、古琵琶湖層群および、中高位段丘堆積物である。これらは本地域南東部の日野川両岸（日野丘陵・水口丘陵）と八日市市南部（八日市丘陵）に見られる丘陵地帯や、西部の野洲川沿いの丘陵地を形成している。

本図幅の北部には、溶結凝灰岩を主とする白亜紀末期の火山岩類およびそれともなり酸性貫入岩類が分布し湖東流紋岩類と総称されている。これらは湖東平野に散在する^{きぬがさ}織山、八幡山、瓶割山、雪野山などの孤立した山体を形成している。

さらに西部の日野川支流の祖父川と野洲川にはさまれた地域には、上記の火山岩類とほぼ同時代に貫入した黒雲母花崗岩が分布し鏡山や十二坊（岩根山）などの山地を形成している。

固結堆積物は本地域として最も古い堆積物である中・古生層で、三上山や石部町・栗東町の名神高速道路沿いなど、西部地域に小規模に見られ、この一部に石灰岩が分布する。この石灰岩は花崗岩による接触変成を受けスカンニウムが形成されている。

1 未固結堆積物

沖積層と低位段丘堆積物および崖錐性堆積物が未固結堆積物の主なものである。

1-1 礫がち堆積物

未固結の礫質堆積物は愛知川、日野川、野洲川等に主として分布する。

愛知川北岸の愛東町と湖東町南部および、同南岸の八日市市東部には旧愛知川の堆積物である低位段丘性のかかなり厚い礫層（層厚 10 m 前後で一部には 20 m 余のところもみられる。）が広く分布する。

愛知川流域の礫質の堆積物は北は愛知川町、湖東町、愛東町の東海道新幹線付近、また南では八日市市の西部まで達し、これより下流では次第に厚い砂泥質堆積物の

下位に没する。

野洲川流域の甲西町、石部町、栗東町、野洲町では沖積層の礫質堆積物がみられる。

日野川中流の日野町では低位段丘堆積物としての礫層がある。

1-② 砂がち堆積物

明瞭な砂質堆積物が分布するのは主として下記の地域である。

- a. 風化した花崗岩よりなる鏡山から十二坊（岩根山）にかけての山塊を源流にした祖父川、善光寺川、光善寺川、家棟川、大山川等の流域
- b. 日野川の下流のはらん原地域。
- c. 水茎内湖干拓地中央部。
- d. 湖岸一帯
- e. 野洲川・愛知川流域の一部

1-③ 泥がち堆積物

沖積層および低位段丘堆積物の分布する地域は、ほとんどが水田として利用され、大部分の地域で表層は泥質となっている。しかし表層の泥質堆積物の厚さは地域差が大きい。特に愛知川流域の東海道新幹線付近より上流や野洲川、日野川流域の一部などでは表層の泥層は薄く、直下に礫が比較的広く分布する。

東海道新幹線ないし東海道線の通過するにあたりより下流域では地下にも泥が多くなる。河川による運搬作用の少ない山かげや湖岸近くの低湿地には、泥層中に腐植質の堆積物が見られる。

1-④ 碎屑堆積物

山麓には普遍的に崖錐性碎屑物がみられるが、特に分布の広いもののみを図示した。

2 半固結堆積物

半固結堆積物は、古琵琶湖層群とこれを不整合におおう中・高位段丘堆積物よりなる。

本図幅中の古琵琶湖層群は、北方より八日市丘陵（布引山）、日野丘陵、水口丘陵および石部付近の丘陵地帯を構成している。いずれも湖東に分布する古琵琶湖層群の北西部に位置し、八日市累層および蒲生累層上部の比較的砂礫層が卓越した部分である。

段丘堆積物は、愛知川、佐久良川、日野川などに沿って分布し、丘陵の周縁部および頂部にみられ、古琵琶湖層群を不整合におおっている。

2-(1) 礫がち堆積物

八日市丘陵では高位段丘がよく発達し、北西へゆるく傾斜する地形面を形成している。主として砂礫より構成され、風化による赤色化を激しく受けて、礫はいわゆる「腐り礫」となっている。礫の多くは、中～大礫の砂岩やチャート、花崗岩類から成っている。また、全般的に段丘の表層部1～2mは、白色粘土が網状に入り込んだ赤色土層が発達している。

水口丘陵の北西端の西出～蒲生堂附近にかけても、高位段丘堆積物が分布していて、やはり赤色化を激しく受け、腐り礫となっている。蒲生堂南東の段丘堆積物中からは、チョウセンゴヨウ、コメツガ、ヒメバラモミなど寒冷型の植物化石が報告されている（古琵琶湖団研 1977）。

日野丘陵の南北両端は中位段丘によって縁どられている。また、湖東町池庄の東方の一部にも中位段丘の礫が見られるが、これらの礫は高位段丘のものと比較して新鮮で、両者は容易に区別ができる。

湖南工業団地内の高松町東方の小丘には、湖東流紋岩および花崗岩類の大礫を主とする厚い礫層が発達している。この礫層は、この附近の古琵琶湖層の最下部に位置すると考えられているが、不明な点が多い（西川ほか、1979）

2-(2) 泥混じり砂礫

八日市丘陵の瓜生津峠付近から水口丘陵の蒲生堂南方一帯にかけては、湖東の古琵琶湖層群の最上部層に位置する淘汰のよい砂礫層が広く分布している。礫種はチャートが多く、他に砂岩、頁岩、花崗岩、湖東流紋岩などを含む。これらの礫は丸みを帯びたものが多く、主として中～大礫からなる。この砂礫層中には、植物破片の化石を含むシルトがレンズ状にはさまれていることが多く、蒲生堂附近からは、第四紀寒冷型を示すトウヒ属、ヒメバラモミが、また、^{ヤマズラ}山面附近からはチョウセンゴヨウ、ミツガシワ、ドカサワラ、ツガ属などの植物化石が報告されている（古琵琶湖団研、1977）

甲西町菩提寺附近にもチャートを主体とする亜円礫～円礫の砂礫層が分布しているが、基盤となっている周辺の山地沿いでは、チャートやホルンフェルスなどの中・古生層起源の巨礫および花崗岩の巨礫を含む花崗岩質の砂礫層からなり、亜炭層

^{がいろぬ}や蛙目粘土層などもはさんでいる。しかし、山面附近ではチャートの礫はほとんど含まれず、花崗岩類の礫を多量に含むものになり、基盤となっている山地の近くでは、花崗岩質砂礫層中に蛙目粘土や花崗岩の巨礫からなる角礫層が見られる。

2-③ 泥混り砂

日野丘陵から水口丘陵の中山附近にかけての丘陵地帯は、淘汰のよい中粒～粗粒の砂を主とする砂泥互層からなっている。水口丘陵西部の岡屋・山中から湖南工業団地附近はこのような地層の他に、花崗岩質の細粒～粗粒の礫層中に蛙目粘土や亜炭をはさむ地層が分布している。

石部町～栗東町附近では、古琵琶湖層群が基盤の中・古生層と複雑に入り込んで分布し、礫、砂、泥の互層から成っている。

日野町蓮華寺の佐久良川河床中には、化石林が見られ、メタセコイヤなどの植物化石が含まれている。また、この化石林附近の地層からは、ステゴドン¹の臼歯化石が発見されており、層準から考えて「スギヤマ象」と推定されている。

2-④ 砂 泥

本図幅中、泥が最も卓越した地域は、水口丘陵の南部で、水口町徳谷附近には中粒砂、シルト、泥の互層からなる地層が発達している。

3 固結堆積物

本図幅中の固結堆積物は、野洲川の南北岸にある栗東町、石部町および野洲町の一部に分布している。このうちチャートが最も広い地域を占め、頁岩・砂岩・石灰岩が局部的に分布している。これらの中・古生界は、花崗岩の進入によって著しい接触変成を受けている。

石部西方の中・古生界中には、石英斑岩脈が多数見られるが、図幅では省略した。

3-① チャート

本図幅内に分布するチャートは、野洲郡の妙光寺山・三上山・菩提寺山および甲賀郡石部から栗太郡栗東町の一部にわたっている。これらのチャートのほとんどは層状で、一部（妙光寺山の一部）に塊状のものが分布しているが、いずれも花崗岩の貫入にともなってホルンフェルス化している。石部西方に分布するものは碎石として採掘されている。

3-② 石灰岩

野洲川の南北両岸にある菩提寺と縄手町の一部に層状の石灰岩が分布している。

このうち縄手町に分布する石灰岩は、その西方に分布するチャートおよび頁岩が東西方向の走向を示すのに対し南北性を示す。このことから縄手町の谷部には断層の存在が予想され、野洲川の南北に分布する石灰岩は一連のものと考えられる。

3-③ 頁岩・砂岩

本図幅中の頁岩・砂岩は、野洲川の南北に小規模に分布している。野洲川以北のものは三上山・妙光寺のチャート中にごく小規模に分布している。妙光寺の東部の花崗岩分布域の一部にルーフペンダント状にホルンフェルス化した砂岩が見られるが図幅では省略した。

野洲川以南では、石部町西方に頁岩が分布する。この部分では、前述のチャート同様大規模な採掘が行われている。

4 火山岩類、深成岩類

本図幅には火山岩類として溶結凝灰岩と、それを貫く花崗斑岩が分布し、両者をあわせて湖東流紋岩類と呼んでいる。

湖東流紋岩類は、長命寺山(奥島山)、岡山、鶴翼山(八幡山)、安土山、織山(観音寺山)、箕作山、瓶割山、雪野山、布施山等の平野に孤立した山体として散在する。また、日野町北脇には古琵琶湖層群に覆われた岩体が分布する。いずれも白亜紀末の火山活動による流紋岩質溶結凝灰岩が大部分を占め、一部にはこれらに貫入する花崗斑岩がともなわれている。

4-① 火山岩類

本図幅内の火山岩類は安土町役場裏の露頭を模式地として上、下2層に大きく区分される。下位の火山岩層は、安土溶結凝灰岩層と名付けられた溶結凝灰岩層で、模式地および織山周辺に分布し、模式地では暗赤紫色を呈する。本溶結凝灰岩は、長径1～3mmの石英、正長石、斜長石、黒雲母等の斑晶と、その間を埋める微晶質の石基を有する。本質レンズはあまり多くはないが、長径1～2cmのものが散在する。また、石質岩片は中・古生層起源とみられる1～3cmのものである。

上位の火山岩層は上記模式地では、最下部に厚さ0.1～5mの礫岩層が見られる。礫岩層の礫は下位の溶結凝灰岩の1～30cmの円～亜円礫であり陶次はあまり良くない。次に、厚さ約5mの長石、石英を主体とする暗黒色の凝灰岩質砂岩と溶結凝灰岩層の互層即ち腰越溶結凝灰岩互層が重なる。この岩石は、1mm程度の石英、長石の斑晶と極めて微晶質の石基を有し、肉眼的に斑晶量は非常に少ない。この上に

厚い瓶割山溶結凝灰岩層が重なる。本岩層は暗緑色～灰黒色を呈し、1～3mmの長石、石英、黒雲母の斑晶と微晶質石基を有し、3～5cm以上のよく引き伸ばされた本質レンズを多量に含み、また中・古生層起源の1～3cmの石質岩片を含む。本層の最上部は、あまり引き伸ばされていない3cm×3cm以上擬礫状の本質レンズを多量に含む凝灰岩に漸移する。

織山の山麓、瓶割山溶結凝灰岩の下部には腰越溶結凝灰岩互層から由来すると思われる砂泥互層や泥岩の巨大な岩塊が異質岩体として取り込まれている。これは、瓶割山溶結凝灰岩の火砕流としての流動時に、はぎとられて混入した岩塊であろうと考えられるので、織山では現沖積面直下のレベルが瓶割山溶結凝灰岩層下底であると予想される。

岡山の一部には、中・古生層起源の石質岩片を多量に含む部分があり、また織山、雪野山の一部には火砕岩脈の密に集中する部分がみられる。

図幅内の火山岩層は大部分は、瓶割山溶結凝灰岩層に相当するものと考えられる。

花崗斑岩の産状は長命寺山、鶴翼山、布施山では岩脈状であるが、瓶割山、箕作山、織山では岩株状であり、瓶割山では、斑状花崗岩となっている。

溶結凝灰岩の岩体は堅硬緻密なため風化は浅く、砂状になるまで風化することはまれで通常、節理に沿ってブロック状に風化が進んでいる。これと対照的に、花崗斑岩の風化はやや深く、真砂状になっている。

4-1(2) 深成岩類

花崗岩

本図幅においては、野洲郡大篠原から甲賀郡正福寺にかけて北西から南東方向に露出する花崗岩体がある。この岩体は、白亜紀末に中・古生層中に貫入したもので中粒の黒雲母花崗岩が主である。このうち南東部の十二坊を中心とする地域のものは淡紅色のカリ長石が存在し、北西部のものはミアロリチックな部分が存在していることが特徴である(辻ほか、1979)。

この岩体中には、各所にペグマタイトが発達しており、石英・長石・角閃石・鉄カンラン石・磁鉄鉱・沸石類・螢石・玉滴石などが産する。本岩体の家棟川上流部・善光寺川上流部などでは、真砂化が進んでおり、下流部に天井川が発達する原因になるとともに、大規模開発の対象ともなっている。山頂部から山腹部にかけては、ブロック化した岩塊が露出しており、花崗岩地帯特有の景観を呈している。またこ

これらの岩塊には、磨崖仏などの彫刻が施されている。比較的新鮮な花崗岩は、笹尾ヶ岳北西部や菩提寺山山頂部などで建築用石材として採掘されたことがある。

本岩体中の節理は名神高速道路以南で正福寺以東のものは、東西方向と南北方向が卓越している。これ以外の地域では、北東～南西方向と北西～南東方向のものが卓越している。

5 変成岩

花崗岩体の西部に分布する中・古生代の堆積岩は、著しいホルンフェルス化を受けている。この作用を受けた部分は機械的風化および浸食作用に対する抵抗が強く、三上山等の高所として残存する。

菩提寺周辺に分布する石灰岩は、接触変成を受け多くのスカルン鉱物が形成されている。ここからは、既に、珪灰石・ザクロ石・ベスブ石・魚眼石・斜黝簾石・緑簾石・ブドウ石・透輝石・灰鉄輝石・サラ輝石・白雲母・方鉛鉱・閃亜鉛鉱・黄銅鉱・磁硫鉄鉱・螢石・大理石を産することが報告されている（辻ほか 1979）

参 考 文 献

- 西川一雄ほか（1979）：湖東流紋岩類・滋賀県の自然：229－249、滋賀県自然保護財団、
- （1979）：時代未詳の新第三紀礫層、滋賀県の自然：301－308、滋賀県自然保護財団。
- 横山卓雄ほか（1979）：古琵琶湖層群、滋賀県の自然：309－389、滋賀県自然保護財団。
- 雨森清（1978）：滋賀県日野町北部の古琵琶湖層群の層序について、滋賀大学卒業論。
- 田村幹夫ほか（1977）：滋賀県水口町北方丘陵の古琵琶湖層群の層序について、地質学雑誌、83，12，749－762。
- 古琵琶湖団研グループ（1977）：水口丘陵西部の古琵琶湖層群、地球科学、31，3，115－129

石田志朗ほか(1980)：滋賀県南部地域地質図、建設省近畿地方建設局大戸川ダム調査事務所。

辻一信ほか(1979)：滋賀県下のおもな鉱物・鉱床、滋賀県の自然、479-540
滋賀県自然保護財団。

表層地質調査

立川正久

滋賀地学研究会

但馬達雄	田村幹夫	藤本秀弘
小早川隆	平尾藤雄	西川一雄
西堀剛	前田康一	雨森清
三矢信昭	伊藤克己	堤康朗
森里明義	山村秀人	西村徹
北村晃		

IV 土 壤

1 林 地 土 壤

2 農 地 土 壤

IV 土 壤

1 林地土壤

1-1(1) 林地土壤概説

本図幅地域における林地土壤は、農地および住宅地域に隣接しており、中・小盆地の丘陵地と、島状山地からなっている。

これらの丘陵地や、山地を形成している土壤は褐色森林土壤と、未熟土に大別され、ごく一部、赤黄色土壤を伴っている。

また、これらの土壤は、土壤を構成している地質母材や、地形、気象、動植物などの土壤生成環境により様相を異にしているが、全般的にみて、天然アカマツを主体とする「やせ山」が大半を占めており、林地の生産力は極めて低く、一部を除いてスギ、ヒノキの人工造林は期待できない。

本土図の作成にあたっては「林野土壤の分類1975」（農林水産省林業試験場土壌部、林試研報No 280、1～28P、1976）にもとづいて分類し、類似する土壤型を一つの統群にまとめた。

統区分は、主に地質および土壤断面の顕著な相異によって行ない、本県における代表的な土壤断面の出現する地名（一部山名）を統名とし区分した。

各土壤統の区分は表1のとおりである。

本図幅の林地土壤は、3土壤群、7土壤統群、16土壤統に区分したが、その概要は次のとおりである。

昭和56年度土地分類基本調査「近江八幡」図幅林地土壌統区分表

土 壌 群	土 壌 統 群	土 壌 統	分 布 地 お よ び 出 現 地 形	地 質 母 材	主 要 植 生
① 褐色森林土壌	ア 乾性褐色森林土壌 (B _A ・B _B ・B _C)	竜 門	三上山から北部へかけての 中・小起伏山地	砂質粘板岩	天然アカマツ 一部ヒノキ
		鹿 ケ 瀬	鏡山周辺地域の尾根筋から 斜面上中部	花 岡 岩	"
		松 尾 寺	近江八幡、安土、八日市の 山地山麓	湖東流紋岩	"
		北 畑	蒲生平野の丘陵地谷筋	礫、粘土	天然アカマツ 広葉樹
		妹	近江八幡の岡山	礫	"
	イ 褐色森林土壌 (B _C ・B _D (d))	伊 吹	甲西町菩提寺山の山麓に局 部的に出現	石 炭 岩	天然アカマツ
		青 土	三上山麓の谷筋に局部的 に出現	砂質粘板岩	天然アカマツ 一部ヒノキ
		猪 子 山	近江八幡、安土、八日市の 山地部谷筋	湖東流紋岩	"

土 壤 群	土 壤 統 群	土 壤 統	分 布 地 お よ び 出 現 地 形	地 質 母 材	主 要 植 生
	ウ 褐色森林土壤 (赤褐系)	奥	近江八幡、安土、八日市の 山地尾根筋	湖東流紋岩	天然アカマツ
		伴	竜王、蒲生の丘陵地	礫、粘土	"
	エ 褐色森林土壤 (黄褐系)	勝	主に甲西町十二坊の南向斜面	花崗岩	"
		上羽田(1)	十二坊の北向斜面	花崗岩の碎屑物	天然アカマツ 一部ヒノキ
② 赤黄色土壤	ア 赤色土壤	伊	織山および長命寺山周辺の 山麓	湖東流紋岩	"
		稗	竜王町山之上の丘陵地の一 部に出現	礫	天然アカマツ
③ 未熟土	ア 残積性未熟土	御	蒲生平野の丘陵地と栗東、 石部の山地	礫、粘土	天然アカマツ の粗林
		堂	鏡山山麓周辺	礫、粘土	"

1—(2) 林地土壌細説

① 褐色森林土壌

(ア) 乾性褐色森林土壌

A₀層がよく発達しており、L層（落葉層）、F層（腐葉層）の形成成分が多い。A層には粒状構造がよくみられ、B層には明るい色相の粒状または、堅果状構造が発達している。ほとんどがB_B型土壌に相当するが、細粒状構造が発達したB_A型土壌、腐植が比較的深くまで浸透したB_c型土壌を含んでいる。

林地の生産力は低く、スギは不適である。ヒノキは成林するが、良好な生長は期待できない。

一般にはマツ類などの天然更新がもつとも望ましい。

〔竜門統〕

三上山から北部へかけての中・小起伏山地に点在している。

母材は、砂質粘板岩からなり、有効土層が浅く、やや未熟土的な土壌である。

生産力は低く、表土が流亡しやすいため森林の更新には十分なる注意が必要である。アカマツの天然下種更新がもっとも適する。

〔鹿ヶ瀬統〕

鏡山周辺地域の尾根筋から斜面上中部にかけて点在している。

母材は、花崗岩からなり、褐色のA層をもち、B層はやや植質である。

生産力は低く、植生は天然アカマツ、落葉広葉樹林となっている。

〔松尾寺統〕

近江八幡、安土、八日市の山地山麓に広く分布している。

母材は、湖東流紋岩を主とするものでA層は薄く、砂粒を含む植質のB層をもち、生産力は低い。表土が流亡しやすいため森林の更新には十分なる注意を要する。

〔北畑統〕

蒲生平野の丘陵地谷筋に細長く分布している。

古琵琶湖層の礫、粘土を母材としており、生産力は低く、未熟土的な土壌である。

A層は欠除しており、B層は橙色を呈し、丸礫が多くみられる。

〔妹統〕

近江八幡の岡山に出現している。

扇状地の礫を母材としており、腐植は少なく生産力は低い。

A層は欠除しており、B層はにぶい橙色を呈した堅果状構造となっている。

〔伊吹統〕

甲西町菩提寺山の山麓に局部的に出現している。

石炭岩を母材としているが生産力は低く、アカマツの天然林となっている。

A-B層は、にぶい橙色を呈し、B層、C層は橙色で角礫がみられる。

(イ) 褐色森林土壌

標準的な森林土壌でA₀層はとくに発達しない。

A層は比較的厚く、20～30cmの厚みがある。

腐植質に富むB層は、褐色で団粒状構造が発達したB_D型土壌と、粒状、堅果状構造を有するやや乾燥傾向の特徴を示すB_D(d)型土壌を含む。

林地生産力は中庸で一般にどのような樹種にも適し、スギ、ヒノキの人工林として期待できる。

〔青土統〕

三上山山麓の谷筋にごく小面積で局部的に出現している。

母材は砂質粘板岩からなっている。

A₀層はとくに発達せず、A-B層は、腐植を含んでいることから、にぶい褐色を呈している。

生産力はやや中庸で谷筋から斜面下部がスギ、斜面上部はヒノキの造林に適している。

〔猪子山統〕

近江八幡、安土、八日市の山地部の谷筋に小面積的に分布している。

母材は湖東流紋岩を主としている。

腐植は比較的深くまで浸透しているが、その含量は少ない。

全体的にヒノキの人工林に適している。

(ウ) 乾性赤色系褐色森林土壌

本土壌の土壌断面形態は、乾性褐色森林土壌に類似するが、B層およびC層の色相は7、5YRの5/8～5YR 5/6を呈し赤味が強い。これは、赤味の強い母材から生成された土壌で、赤色風化の影響を受けたことが原因しているように考えられる。

乾性褐色森林土壌に比較して塩基類が少なく、酸性が強い。

一般に土壌構造は、ち密で通気透水が悪く、生産力は非常に低い。

〔奥島統〕

近江八幡、安土、八日市の山地尾根筋に部分的に出現している。

母材は湖東流紋岩を主としている。

A-B層は薄く明褐色を呈し、B層は明赤褐の植質で孔隙量は少なく、ち密である。このため、生産力は低く、天然アカマツ林や落葉広葉樹林となっている。

〔伴中山統〕

竜王、蒲生の丘陵地に分布している。

礫、粘土を母材としており、B層には明赤褐色を呈した多くの小砂利がみとめられる。

生産力は低く、天然アカマツの粗林となっている。

(四) 乾性黄褐色森林土壌

本土壌の土壌断面形態は乾性褐色森林土壌に類似するが、B層およびC層の色相は7、5 Y R 6/8 ~ 10 Y R 6/6 を呈し黄味が強い。

一般に酸性が強く、塩基にも乏しいやせ土の一種であるが、その性質は赤色土よりは良好である。

〔勝野統〕

主に甲西町十二坊の南向斜面に広く分布している。

花崗岩を母材としており、侵蝕を受けやすく未熟土的な土壌で有効土層は浅い。

生産力はきわめて低く、表土が流亡しやすい土壌であるため森林の更新には十分な注意が必要である。

〔上羽田(1)統〕

十二坊の北向斜面に分布している。

花崗岩の碎屑物を母材としている外は勝野統と同様、生産力の低い土壌である。

(2) 赤黄色土壌

(ア) 赤色土壌

赤色土は、その色が他の土壌に比較して著しく赤味が強い(少なくとも5 Y R 4/6、標準としては2、5 Y R 4/6よりも赤い)のが特色である。

本土壌は一般に塩基類が少なく、酸性も強くやせている。そのうえ、通気透水も悪く生産力が非常に低いことも特色である。

これらの赤色土が出現する地域の大部分は、いわゆる里山地帯で、古来人為によ

る植生の破壊が繰返されていた傾向が強い。取扱いをあやまると荒廃地になりやすいため、森林の更新には十分な注意が必要である。

〔伊 岬 統〕

織山および長命寺山周辺の山麓に部分的に点在している。

母材は湖東流紋岩を主としており、A-B層は赤褐色および明赤褐色を呈し、一段と赤味が強く堅果状構造が支配的に発達している。

B層下部は赤色で堅く、ち密であり物理性が非常に悪く林地としての生産力は期待できない。

天然アカマツ、および落葉広葉樹林となっている。

(イ) 黄色土

黄色土は、その出が他の土壤に比較して著しく黄味が強い(少なくとも10YR 6/6、標準としては2、5Yよりも黄ろい)のが特色である。

土壤は一般に酸性が強く、塩基にも乏しいやせ土の一種であるが、その性質は赤色土よりは良好である。

〔稗 谷 統〕

竜王町山之上の丘陵地に一部出現している。

古琵琶湖層の礫を母材としており、未熟土的な土壤である。

A-B層、B層はいずれも明黄褐色を呈し、C層は黄色で一段と黄味が強く、弱カベ状の構造がみられ生産力も低く、天然アカマツの粗林となっている。

③ 未熟土

(ア) 残積性未熟土

A層の発達が弱く、砂質、砂礫質のもので侵蝕などにより有効土層は欠除している。

一般には、急な地形と雨量の多い気象条件から、斜面の下部や谷沿いに新しく堆積した若い土壤の場合と、第三紀以後の地盤の隆起にともなって陸上に現われた古い水成堆積土からなる場合の二通りがあるが、例外として人為的に有効土層を削取った場合も含まれている。

A₀層は、わずかにみられる程度で、土壤の最上部には腐植の少ない細かな堅果状構造が多く、全層をとおして母材の色がまだ残っており、土壤として未熟であることを示している。

これらの土壤は完熟した土壤に比較して性質も劣り、生産力も著しく低いのが特色である。

〔御池統〕

蒲生平野の丘陵地に広く分布している外、栗東、石部町の低地部に出現している。古琵琶湖層の礫、粘土を母材としている。

侵蝕が激しく、表層の流出が明らかでA層は欠除、B層から下部は中・小の丸礫が多くみとめられ多少赤味を呈している。

〔堂山統〕

鏡山山麓周辺に広く分布している。

主として花崗岩および花崗岩の碎屑物を母材としており、植質風化しやすい山麓地、丘陵地に多く出現している。

参 考 文 献

滋賀県自然保護財団（1979）：滋賀県の自然

国立林業試験場（1961）：林野土壤とそのしらべ方、林野弘済会

宮崎柄（1958）：図説日本の森林土壤 全国林業改良普及協会

国土庁土地局（1975）：縮尺20万分の1土地分類図（表層地質図）滋賀県

国土庁土地局（1975）：縮尺20万分の1土地分類図（土壤図）滋賀県

昭和56年度土地分類基本調査、調査者 滋賀県森林センター

林業専門技術員 中 島 宏 三

2 農地土壌

土壌の区分

農地土壌の分類については、地力保全基本調査の結果をもとに、これに最近の調査結果および検土枝調査を加えて、都道府県土地分類基本調査作業規程に基づいて土壌統区分を行った。土壌統は全国統一土壌統で区分し、図幅には土壌統番号で示した。

土壌統の区分は断面形態、母材、堆積様式の異同により定めることになっている。次表には、この図幅内の地域に分布する土壌統について分類上の基準を示した。

土壤統区分表

土壤統番	土壤統号	腐植	土色	礫層・砂層 盤層・岩盤	斑紋・結核	土性
04 多湿黒ボク土壤						
厚層腐植質多湿黒ボク土壤						
0409	みいざ 深井沢	全層腐植層	—	なし	あり	強粘～粘
表層腐植質多湿黒ボク土壤						
0427	みわ 三輪	表層腐植層	— 灰～灰褐	なし	あり	強粘～粘
0429	みや 金屋	"	— 黄～黄褐	"	"	"
0431	いし 石	"	—	30～60cm以内	"	"
0433	とき 時	"	—	0～30cm以内	"	—
07 灰色台地土壤						
細粒灰色台地土壤						
0703	こむかい 小向	表層腐植層 なし	灰～灰褐	なし	斑紋あり Mn結核なし	強粘
0705	きくた 喜久田	"	"	"	斑紋あり Mn結核なし	粘
08 グライ台地土壤						
細粒グライ台地土壤						
0803	たき 滝	表層腐植層 なし	灰/青灰	なし	—	強粘
0804	はし 橋	"	"	"	—	粘
10 黄色土壤						
細粒黄色土壤、斑紋あり						
1014	たてぬま 蓼沼	表層腐植層 なし	黄(黄褐)	なし	斑紋あり Mn結核なし	強粘
礫質黄色土壤、斑紋あり						
1021	ひみ 氷見	表層腐植層 なし	黄(黄褐)	30～60cm以内	斑紋あり	強粘～粘

構造	泥炭層	黒泥層	グライ層	反応	母材	堆積様式	主な土地利用	備考
—	なし	なし	なし	—	非固結火成岩	水積(崩積)	水田	
—	なし	なし	なし	—	非固結火成岩 非固結堆積岩	水積	水田	
—	"	"	"	—	"	"	"	
—	"	"	"	—	"	"	"	
—	"	"	"	—	"	"	"	
—	なし	なし	なし	—	—	洪積世堆積 残積(崩積)	水田 畑	
—	"	"	"	—	—	"	"	
—	なし	なし	K2 K3	—	—	洪積世堆積 残積・崩積	水田	
—	"	"	"	—	—	"	"	
—	なし	なし	なし	—	非固結堆積岩 非固結堆積岩 非固結火成岩	洪積世堆積 残積(崩積)	水田 (畑)	
—	なし	なし	なし	—	非固結堆積岩 非固結堆積岩 非固結火成岩	洪積世堆積 残積(崩積)	水田 (畑)	

土 壤 統 号	土 壤 統	腐 植 土 色	礫層・砂礫層 盤層・岩盤	斑紋・結核	土 性		
1 2 褐色低地土壤 細粒褐色低地土壤斑紋あり							
1208	なか 中 や 屋	じま 島 が 形	表層腐植層 なし	黄 褐	なし	斑紋あり Mn結核なし	強 粘
1209			"	"	"	斑紋あり Mn結核あり	"
中粗粒褐色低地土壤、斑紋あり							
1212	おぎ 荻	の 野	表層腐植層 なし	黄 褐	なし	斑紋あり Mn結核なし	壤
礫質褐色低地土壤、斑紋あり							
1215	おお 大	さわ 沢	表層腐植層 なし	黄 褐	30~60cm以内	斑紋あり	強粘~粘
1217	い 井	じり 尻 の 野	"	"	0~30cm以内	"	—
灰色低地土壤 細粒灰色低地土壤、灰色系							
1301	とり 東	わ 和	表層腐植層 なし	灰	なし	斑紋あり Mn結核なし	強 粘
1302	よつ 四	くら 倉	"	"	"	"	"
1303	さ 佐	が 賀	"	"	"	斑紋あり Mn結核あり	"
1304	ふじ 藤	しろ 代	"	"	"	斑紋あり Mn結核なし	粘
1305	かも 鴨	じま 島	"	"	"	"	"
1306	たから 宝	だ 田	"	"	"	斑紋あり Mn結核あり	"
中粗粒灰色低地土壤、灰色系 (GrL - mc)							
1307	か 加	も 茂	表層腐植層 なし	灰	なし	斑紋あり Mn結核なし	壤
1308	きよ 清	たけ 武	"	"	"	斑紋あり Mn結核あり	壤
1309	とよ 豊	なか 中	"	"	"	斑紋あり	砂
礫質灰色低地土壤、灰色系							
1310	く 久	ぜ 世	表層腐植層 なし	灰	30~60cm以内	斑紋あり	強粘~粘
1311	かつ 追	この 子 野 木	"	"	"	"	壤~砂

構造	泥炭層	黒泥層	グライ層	反応	母材	堆積様式	主な土地利用	備考
—	なし	なし	なし	—	非固結堆積岩	水積	水田 (畑)	
—	"	"	"	—	"	"	"	
—	なし	なし	なし	—	非固結堆積岩	水積	水田 (畑)	
—	なし	なし	なし	—	非固結堆積岩	水積	水田 (畑)	
—	"	"	"	—	"	"	"	
なし	なし	なし	なし	—	非固結堆積岩	水積	水田	
あり	"	"	"	—	"	"	"	
"	"	"	"	—	"	"	"	
なし	"	"	"	—	"	"	"	
あり	"	"	"	—	"	"	"	
"	"	"	"	—	"	"	"	
—	なし	なし	なし	—	非固結堆積岩	水積	水田	
—	"	"	"	—	"	"	"	
—	"	"	"	—	"	"	"	
—	なし	なし	なし	—	非固結堆積岩	水積	水田	
—	"	"	"	—	"	"	"	

土 壤 統 号	土 壤 統	腐 植	土 色	礫層・砂礫層 盤層・岩盤	斑紋・結核	土 性
1312	こく 国 領	表層腐植層 なし	灰	0~30cm以内	斑紋あり	—
細粒灰色低地土壤、灰褐色系 (GrL-bf)						
1313	もろ 諸 橋 かね だ田	表層腐植層 なし	灰 褐	なし	斑紋あり Mn結核なし	強 粘
1315	金 田	"	"	"	"	粘
中粗粒灰色低地土壤、灰褐色系						
1317	や 安 来	表層腐植層 なし	灰 褐	なし	斑紋あり Mn結核なし	壤
礫質灰色低地土壤、灰褐色系						
1320	あ 赤 い池	表層腐植層 なし	灰 褐	30~60cm以内	斑紋あり	強粘~粘
1321	まつ 松 もと本	"	"	"	"	壤~砂
1322	か 柏 やま山	"	"	0~30cm以内	"	—
灰色低地土壤、下層黒ボク						
1324	の 野 いち市	下層腐植質 火山灰層	灰~灰褐 黒~黒褐	なし	斑紋あり	粘
灰色低地土壤、斑紋なし						
1334	ひ 姫 じま島	表層腐植層 なし	灰~灰褐	なし	なし	砂
14 グライ土壤						
細粒強グライ土壤						
1401	ふ 富 そ曾 た 亀 田 がわ川	表層腐植層 なし	青 灰	なし	30cm以下 なし	強 粘
1402	にし 西 やま山	"	"	"	30cm以下 あり	"
1403	ひがし 東 うら浦	"	"	"	30cm以下 なし	粘
1404	たき 滝 お尾	"	"	"	30cm以下 あり	"
1406	こと 琴 はま浜	"	"	"	"	壤
1407	かた 片 ぎり桐	"	"	"	30cm以下 なし	砂
1408		"	"	"	30cm以下 あり	"

構造	泥炭層	黒炭層	グライ層	反応	母材	堆積様式	主な土地利用	備考
—	なし	なし	なし	—	非固結堆積岩	水積	水田	
あり (なし)	なし	なし	なし	—	非固結堆積岩	水積	水田	
"	"	"	"	—	"	"	"	
あり (なし)	なし	なし	なし	—	非固結堆積岩	水積	水田	
—	なし	なし	なし	—	非固結堆積岩	水積	水田	
—	"	"	"	—	"	"	"	
—	"	"	"	—	"	"	"	
—	なし	なし	なし	—	非固結堆積岩	水積	水田 (畑)	
—	なし	なし	なし	—	非固結堆積岩	水積	畑	
なし	なし	なし	K1	—	非固結堆積岩	水積	水田	
—	"	"	"	—	"	"	"	
なし	"	"	"	—	"	"	"	
—	"	"	"	—	"	"	"	
なし	"	"	"	—	"	"	"	
—	"	"	"	—	"	"	"	
—	"	"	"	—	"	"	"	

土 壤 統 号	土 壤 統	腐 植	土 色	礫層・砂礫層 盤層・岩盤	斑紋・結核	土 性	
礫質強グライ土壤							
1413	りゅう 竜 おお 大	ほく 北 す 洲	表層腐植層 なし	青 灰	0~30 cm以内	30 cm以下 なし	—
1414			"	"	"	30 cm以下 あり	—
細粒グライ土壤							
1415	ほ保 はた 幡	くら 倉 の 野	表層腐植層 なし	灰色 /青灰	なし	斑紋あり Mn結核なし	強 粘
1416			"	"	"	"	"
1417	かわ 川	ぞえ 副	"	"	"	斑紋あり Mn結核あり	"
1418	ち 干	とせ 年	"	"	"	斑紋あり Mn結核なし	粘
1419	あそ う 浅	ず 津	"	"	"	"	"
中粗粒グライ土壤							
1421	にい 新	やま 山	表層腐植層 なし	灰色 /青灰	なし	斑紋あり Mn結核なし	壤
1423	や 八	わた 幡	"	"	"	斑紋あり	砂
グライ土壤、下層有機質							
1428	よね 米	さと 里	表層腐植層 なし	青灰/—	なし	あり (なし)	強 粘
15 黒 泥 土 壤							
1505	いま 今	うら 浦	—	—/青灰	なし	あり (なし)	強粘~ 粘
16 泥 炭 土 壤							
1601	なが 長	とみ 富	—	—	なし	—	—

- (1) 腐植：腐植層なしは腐植含量が5%未満。腐植層ありは腐植含量が5%以上10%未満
- (2) 土色：土層1mのうち、作土下土層（おおむね25~60cm）の湿土の基色の色で区分。
- (3) 礫層、砂礫層：いずれも径2mm以上の未風化または半風化礫が断面の面積割合で20%以上を占める土層が20cm以上あること。

構造	泥炭層	黒泥層	グライ層	反応	母材	堆積様式	主な土地利用	備考
—	なし	なし	K 1	—	非固結堆積岩	水積	水田	
—	"	"	"	—	"	"	"	
なし	なし	なし	K 3	—	非固結堆積岩	水積	水田	
あり	"	"	"	—	"	"	"	
"	"	"	"	—	"	"	"	
なし	"	"	"	—	"	"	"	
あり	"	"	"	—	"	"	"	
なし	なし	なし	K 3	—	非固結堆積岩	水積	水田	
—	"	"	"	—	"	"	"	
—	I 3	なし	K 2	—	非固結堆積岩 植物遺体	水積/集積	水田	
—	なし	J 2	K 3	—	植物遺体 非固結堆積岩	集積/水積	"	
—	I 1	なし	なし	—	植物遺体 (低位泥炭)	集積	水田 畑	

礫層は細土の土性が壤質よりも細かく、砂礫層は細土の土性が砂質。

- (4) 斑紋結核：斑紋は鉄、マンガンの酸化沈積物で、斑紋「あり」はこれらが断面の2%以上を占める場合に言う。結核とはマンガンまたは鉄を主成分とし、指で容易に潰れない程度の硬さを持った酸化沈積物。

- (5) 土性：強粘質、HC、LiC、SC、SiC（粘土含量25%以上）

粘質CL、SCL、SicL（粘土含量15%以上で25%未満）

壤質、SL、L、SiL、（粘土含量15%未満で砂およびシルトの含量が85%未満）

砂、S、LS、（砂、シルトの合計含量が85%以上）

- (6) 泥炭層：湿性植物が集積し、その組織が肉眼で識別でき、腐植含量が20%以上。表中 I_1 は全層または作土を除くほぼ全層が泥炭層、 I_3 はおおむね表面下30cm以下が泥炭層。
- (7) 黒泥層：湿性植物の遺体がほとんど識別できない程度まで分解した有機質材料と無機質材料の混合層。腐植含量10%以上で黒色。リン酸吸収係数1200以下。表中 J_2 は上層50cm以内に厚さ20cm以上の黒泥層があり、下層は黒泥層以外の土層よりなる。
- (8) グライ層：土壌還元による2価鉄の存在を示す $\alpha \cdot \alpha^1$ シビリジル反応が即時鮮明に現われる土層。
表中 K_1 は全層または作土を除くほぼ全層がグライ層。 K_2 は上層50cm以内に厚さ20cm以上がグライ層、 K_3 とは、ここではグライ層は30cm以下80cm以内とした。なしはグライ層があっても80cm以下。
- (9) 多湿黒ボク土壌：黒ボク土壌は土色は黒色、腐植含量は5～10%、リン酸吸収係数1200以上で斑紋がある土壌である。

2-1(1) 農地土壌の概要

この図幅の地域は農地の占める割合が高く、大部分は水田である。畑地は丘陵地または河岸に近い場所にまとまって存在するほかは、点点として分布するにすぎない。

したがって、水田の土壌統数は52に対し、畑の土壌統数は3であった。

まず、愛知川右岸の愛東町、湖東町および愛知川町の土壌についてみると、川岸部と河岸段丘の上位部では土壌が異なる。川岸近くは主として旧河道の川床が高く、上流部は灰褐系の砂礫質土壌で、下流部は灰色系の砂礫質土壌となっている。

湖東町小田刈から、愛知川町荊間を経て、豊満に達する緩やかな段丘部は、壤質で灰色系の灰色低地土壌で、愛知川の水流によって浸食された後に堆積した土壌とみられる。これより上段部は強粘質で灰褐系の灰色低地土壌で、さらに上段部は強粘質の褐色低地土が広い範囲に分布する。

この褐色低地土壌は愛東町の愛知川上流部では段丘が境界となり、また湖東町では灰褐色系の灰色低地土壌の中に舌状に貫入が認められる。

愛東町鯉江、湖東町勝堂には小面積ながら多湿黒ボク土壌の分布がみられ、また湖東町では小田刈から南清水へ、また小池から南清水へと、地図に記入できない程の小面積で線状に下層黒ボク土壌が存在する。また秦荘町の栗田、長塚、野々目の水田の中には薄い黒ボク土層を含むものがある。

愛知川町畑田の南部には小面積の礫質褐色低地土壌の分布がみられるほか、強粘質の褐色低地土の地域では、2～3筆の水田規模で礫層の位置が高い水田が点在し、また土性が粘質の場合もみられ、しばしば小面積の土性変化がみられる。

秦荘町の宇曾川岸に近い部分では、壤質で灰色系の灰色低地土壌が狭い巾で分布し、河川の影響が認められる。

愛知川左岸部に移ると、八日市市の愛知川上流部は壤質または粘質で灰褐色系の灰色低地土壌が分布し、中流部は壤質または粘質で灰色系の灰色低地土壌が分布する。五個荘町宮荘、金堂より下流部の三角州は主としてグライ土壌となっている。

五個荘町の箕作山麓には、礫質土壌が認められ、末端部周辺の土性が壤質であることから、旧河道とみられる。

八日市市を中心に安土町および近江八幡市の一部で、ほぼ新幹線までの扇状地では土壌にいちじるしい特色が認められる。

まず、八日市市の国道421号線の南側の中央部は、砂礫層の上を黒ボク土壌で覆った礫質の多湿黒ボク土壌が分布し、この外周部をとり巻くように粘質の多湿黒ボク土壌が分布していて、さらにこの多湿黒ボク土壌の外周部は灰褐色系の灰色低地土壌へと移行している。

多湿黒ボク土壌は八日市市の中央部だけでなく、下流部において、八日市市平田町および近江八幡市西生来町の2ヶ所で小規模ながら分布している。

八日市市下羽田町では、表層が灰褐色の土層で下層が黒ボクの水田があり、これと同じ土壌は安土町内野から近江八幡市野田町まで円弧を描くように分布が認められる。この土壌は最下層に褐色の土層が多く認められることから、蛇砂川による黒ボク土層の埋没によって生成されたとみられる。下層黒ボク土壌は八日市市の最東部および建部、御園地区で愛知川の緩段丘部でも分布している。このことは永源寺町から近江八幡市に達する広い範囲を黒ボク土壌が分布していた時代があったこと

を物語っている。

安土町の中央部から近江八幡市の東部までで、ほぼ国鉄東海道線よりも上流部には粘質で灰褐色の灰色低地土壌が分布し、この土壌は八日市の東部まで達して、蛇砂川沿いに分布面積は大きい。腐植を含む土層は厚い。黒ボク母材の混入によって生成した土壌とみられ、これと母材が同じ土壌の分布範囲は近江八幡市の黒橋川が境界とみられる。

安土町蒲生野には蛇砂川沿いに砂礫質の土壌が分布する。八日市市下羽田町の瓶割山東部には下層泥炭層土壌があり、古くは湿地であったとみられる。

蒲生町、日野町で日野川および佐久良川の沿岸の平担地では、川沿いは礫質土壌が多く、壤質の土壌も分布している。これらは河岸段丘の下段部に多い。段丘の上部から丘陵地までの平担地は粘質で灰色系の灰色低地土が広く分布し、佐久良川上流部にはグライ土壌も残っている。日野町蓮花寺の東部には礫質または壤質の土壌が分布する。

日野町円池には下層黒ボク土壌が小規模に分布し、その周辺では灰褐色の灰色低地土壌が分布する。丘陵地では台地土壌が小面積で認められる。

水口町丘陵地ならびに、これに接した竜王町、蒲生町および日野町の丘陵地の水田は粘質または強粘質で強グライ土またはグライ土壌で占められる。

甲西町、石部町の野洲川沿いは礫質土壌で、やや離れて壤質で灰色系の灰色低地土壌へ移行がみられる。ただ花崗岩質の山または砂質丘陵から流れる小河川の周辺および山脚部は砂質土壌となっている。

栗東町および守山市の野洲川左岸部では、野洲川沿いは壤質で、やや遠ざかると粘質へと移行する。いずれも、灰色系の灰色低地土壌でマンガン結核の出る確率が高い。

野洲町の上流部は甲西町と同様の土性変化が認められる。三上山および妙光寺山の周辺部は砂質または壤質となっている。野洲町市三宅を中心に礫質土壌が分布し、これは旧河道とみられる。

野洲町の下流部、中主町、竜王町および近江八幡市の平担地は三角州で、地下水位が低い地区はすべて灰色系の灰色低地土壌であって、グライ土壌も広い範囲に分布している。低地では強グライ土壌も残っているが、分布面積は少なく減少している。

これらの地域の土性については、礫質土壤は極限され分布面積も狭い。野洲川、日野川の河岸部は砂または壤質が主で河川から遠ざかるに従って粘質から強粘質へと移行することが認められる。三角州では粒経の小さいものほど遠くへ運ばれて沈降して、土壤が生成されていることが明らかである。

琵琶湖岸に近く、波浪により砂堆が形成されたところでは、砂質の水田が分布する。

小中の湖干拓地には泥炭土壤が、津田干拓地および水茎干拓地の一部には黒泥土壤が分布する。これら有機物の原材料はヨシなどの植物遺体で、古くは後背湿地であったことを物語っている。大中の湖の一部および安土町常楽寺の西の湖寄りには下層泥炭土壤が小面積ながら分布する。

2-② 水田土壤統 (Paddy Field)

① 多湿黒ボク土壤 (Wet Andosols)

(厚層腐植多湿黒ボク土壤)

0409 ^{ふかいざわ} 深井沢統 Fukai zawa : 全層または作土直下から、ほぼ全層が黒ボク土壤で、斑紋があり、土性は粘質または強粘質である。

(表層腐植質多湿黒ボク土)

0427 ^{みわ} 三輪統 Miwa : 作土または作土下から、おおむね60cmまでが黒ボク土壤で斑紋があり、土性は粘質または強粘質である。下層は灰色または灰褐色であるが、八日市市を中心に、近江八幡、湖東町および愛東町の一部に分布し、下層は主として黄褐色である。

0429 ^{かなやだに} 金屋谷統 Kanayadani : 表層は上記三輪統と同じであるが、下層の土色は黄色～黄褐色である。この地域では下層の土色は主として黄褐色である。

0431 ^{いしもと} 石本統 Ishimoto : 礫の上層は全層または作土下から黒ボク土壤で30cm以下60cm以内で砂礫層または礫層となる。表層の土性は強粘質～粘質である。この地域では表層の土性は粘質が主で、砂礫層の位置は高い水田が多い。

0433 ^{ときわ} 時庭統 Tokiniwa : 表層は上記石本統と同じで、礫の出現位置は30cm以内である。

② 灰色台地土壤 (Gray Upland soils)

(細粒灰色台地土壤、斑紋あり)

0703 ^{こむかい} 小向統 Komukai : 台地にあり、土色は灰色、土性は強粘質で、堆積

様式は洪積または残積である。下層に斑紋があり水の作用が認められる。日野町の丘陵台地に小面積で分布する。

0705 ^{きくた}喜久田統 Kikuta: 土性が粘質となるほかは、上記の小向統と同じ。

③ グライ台地土壌 (Gley upland soils)

(細粒グライ台地土壌)

0803 ^{たきかわ}滝川統 Takikawa: 台地にあり、強粘質でグライ層の位置は作土下よりもやや下層に現われ、堆積様式は洪積または残積である。この地域では日野町の丘陵地に小面積で分布がみられ、表層の土色は灰色、中層がグライ層で、下層の土色は黄褐色～黄色である。

0804 ^{はしもと}橋本統 Hashimoto: 土性が粘質であるほかは、上記の滝川統と同じ。

④ 褐色低地土壌 (Brown lowland soils)

(細粒褐色低地土壌、斑紋あり)

1208 ^{なかじま}中島統 Nakajima: 主要土層の土色は黄褐色、土性は強粘質で、斑紋がある。

愛東町および湖東町に広い範囲で分布する。

1209 ^{やがた}屋形統 yagata: マンガン結核があるほかは上記の中島統と同じ。

(中粗粒褐色低地土壌)

1212 ^{おぎの}荻野統 Ogino: 主要土層の土色は黄褐色、土性は壤質で、斑紋がある。

八日市市に小面積ながら分布がみられる。

(礫質褐色低地土壌、斑紋あり)

1215 ^{おおさわ}大沢統 Oosawa: 主要土層の土色は黄褐色、土性は強粘質または粘質で、礫の位置は30 cm以下60 cm以内である。

愛知川町、八日市市に分布する。

1217 ^{いじりの}井尻野統 Ijirino: 上記の大沢統と同じく黄褐の礫質であるが、礫の位置は30 cm以内に現われる。表層の土性には関係がない。

⑤ 灰色低地土壌 (Gray lowland soils)

(細粒灰色低地土壌、灰色系)

1301 ^{とうわ}東和統 Towa: 主要土層の土色は灰色、土性は強粘質、構造なく、斑紋がある。

近江八幡市白鳥川中流域、八日市市平石町および蒲生町に分布がみられる。構造の発達那不十分であることは、干旱などにより、下層まで土壤乾燥を受けることが少ない水田とみられる。

土色が10Yの青灰色を呈する水田もある。

1302 ^{よつくら}四倉統 Yotsukura : 発達した構造があるほかは、東和統と同じ。

近江八幡市の白鳥川流域に分布し、上記の東和統の水田と共に分布する。

1303 ^{さが}佐賀統 Saga : 結核があるほかは、上記の四倉統と同じ。蒲生町市子沖に上記の四倉統の水田と共に分布する。

1304 ^{ふじしろ}藤代統 Fujishiro : 主要土層の土色は灰色、土性は粘質、構造なく、斑紋がある。中主町、近江八幡市に広い範囲で分布し、ほかの市町でも小面積で分布する。

構造の発達那不十分であることは、干旱などにより、下層まで土壤の乾燥を受けることが少ない水田とみられる。

土色が10Yの青灰色を呈する水田も多い。

1305 ^{かもじま}鴨島統 Kamojima : 構造があるほかは、上記の藤代統と同じ。

下流域の三角州低地では藤代統と混在し、中上流域では下記の宝田統と混在する場合が多く、特に日野川系の流域市町で集中的に分布することが認められる。

1306 ^{たからだ}宝田統 Takarada : 結核があるほかは上記の鴨島統と同じ。

栗東町、守山市の一部および竜王町の一部では、マンガン結核は高い確率で現われる。また上記の鴨島統とは混在する場合が多い。

(中粗粒灰色低地土)

1307 ^{かも}加茂統 Kamo : 主要土層の土色は灰色、土性は壤質で、斑紋がある。土性が壤質であることから、河川に近い場所に各所に分布がみられる。上流部では河岸段丘の近くに、下流部では川沿いに帯状に分布する。

1308 ^{きよたけ}清武統 Kiyotake : マンガン結核があるほかは加茂統と同じ。

栗東町および守山市の野洲川左岸部、五個荘町の愛知川左岸部で、上記の加茂統と共に分布する。

1309 ^{とよなか}豊中統 Toyonaka : 主要土層は灰色、土性は砂質で斑紋がある。

河川の沿岸に近い部分、湖岸の砂堆地で地下水位がやや低い場所、花崗質の山地の山麓に近い部分に点点として分布する。表層の土性は壤質で40cm以内で砂質となる。

(礫質灰色低地土、灰色系)

1310 久世田統 ^{くせだ} Kuseda : 主要土層は灰色、表層の土性は粘質、斑紋があり、30 cm以下60 cm以内で砂礫層または礫層が現われる。日野川上流部の河岸段丘の近くに分布がみられる。

1311 追木野木統 ^{おつこのぎ} Okkonogi : 表層の土性が壤質であるほかは上記の久世田統と同じ。

河川の上流部から中流部で河岸堤近くの河道の部分、また河川から遠い場所においては旧河道とみられる場所に分布する。

この図幅においては、概して礫の出現位置が高く下記の国領統に近い土壤が多い。加茂統などの壤質土壤の境界は礫の位は低くなる。

1312 国領統 ^{こくりょう} Kokuryo : 地層の土性には関係がなく、砂礫層または礫層の位置は30 cm以内となる。

上記の追木野木統と同じ地形の場所に分布する。

(細粒灰色低地土壤、灰褐色)

1313 諸橋統 ^{もろはし} Morohashi : 主要土層は灰褐色、土性は強粘質で斑紋がある。湖東町および秦荘町に集中し、小面積で八日市市市辺町に分布する。腐植を含む土層が厚く、また湖東町および秦荘町では、表層あるいは下層に薄い黒ボク土層を含む水田もある。

1315 金田統 ^{かねだ} Kaneda : 土性が粘質であるほかは、上記の諸橋統と同じ。

八日市市では腐植質の黒ボク土壤に接して広く分布する。また日野町、近江八幡市および安土町でも黒ボク土壤の下流部でまとまって分布する。愛東町上岸本でも小規模で分布する。これらの土壤は中層または下層まで灰褐色で、腐植を含む土層は厚い。八日市市の蛇砂川上流部では下層に薄い黒ボク土層を含む。

(中粗粒灰色低地土壤、灰褐色)

1317 安木統 ^{やすき} Yasuki : 主要土層は灰褐色、土性は壤質で、斑紋がある。

愛知川のやや上流で両岸部の八日市市および愛東町に分布する。八日市市では下層に黒ボク土壤に近い土層が認められる場合もある。

両岸部ともに下層1 m近くで砂礫層または礫層となる場合が多く、右岸部では河岸堤に近い部分では砂礫層は60 cmよりも高い。

1320 赤池統 ^{あかいけ} Akaike : 表層土層は灰褐色、土性は粘質、30 cm以下60 cm

以内で砂礫層または礫層となる。

蛇砂川のやや下流で安土町蒲生野および湖東町中岸本に分布する。

1321 ^{まつもと}松本統 Matumoto : 土性が壤質であるほかは、上記の赤池統と同じ。

愛東町の愛知川右岸部で安木統と共に分布がみられる。

1322 ^{かやま}栢山統 Kayama : 表層の土性に関係はないが、砂礫層または礫層は30 cm以内に現われ、砂礫層または礫層の上層部まで灰褐色を呈する。

蛇砂川のやや下流部2ヶ所に分布する。

(灰色低地土壤、下層黒ボク)

1324 ^{のいち}野市統 Noichi : 表層土層は灰色または灰褐色、土性は粘質25 cm以下に腐植質の黒ボク土層が現われる。

八日市市、安土町、近江八幡市の東部および日野町内池に分布し、黒ボク土壤の上にやや厚く灰褐色の土壤が覆って生成されたとみられる。

⑥ グライ土壤(Gley soils)

(細粒強グライ土壤)

1401 ^{ふそき}富曾亀統 Fusoki : 全層または作土を除くほぼ全層がグライ層、土性は強粘質で、30 cm以下に斑紋がない。湿田の性格が最も強い。

能登川町の一部に分布する。

1402 ^{たがわ}田川統 Tagawa : 30 cm以下に斑紋があるほかは富曾亀統と同じ。

安土山の東部、能登川町の一部、西の湖など近江八幡市の湖岸部の一部、蒲生町大塚、および水口町などの丘陵地の谷間水田に分布する。

1403 ^{にしやま}西山統 Nishiyama : 全層または作土を除くほぼ全層がグライ層、土性は粘質で、30 cm以下に斑紋がない。湿田の性格が最も強い。

小中の湖に小面積で分布する。

1404 ^{ひがしうら}東浦統 Higashiura : 30 cm以下に斑紋があるほかは、上記の西山統と同じ。

近江八幡市鷹飼町から浅小井町までの、西の湖南部にまとまって分布するほか、五個荘町、能登川町の一部および丘陵地の谷間、山脚に点在する。

1406 ^{たきお}滝尾統 Takio : 全層または作土を除くほぼ全層がグライ層で、斑紋がある。

中主町安治、栗東町の草津川上流および五個荘町に極所的に分布する。

1407 ^{ことはま} 琵琶統 Kotohama : 全層または作土を除くほぼ全層がグライ層で、土性は砂質、30 cm以下に斑紋がない。湿田の性格が最も強い。

小中の湖に極所的に分布する。

1408 ^{かたぎり} 片桐統 Katagiri : 30 cm以下に斑紋があるほかは琵琶統と同じ。野田沼干拓地および蒲生町横山に小面積で分布する。

1413 ^{りゅうほく} 竜北統 Ryuhoku : 全層がグライ層で砂礫層が30 cm以内にある八日市市土器町に小面積で分布する。

1414 ^{おおす} 大洲統 Ōsu : 30 cm以下に斑紋があるほかは、上記の竜北統と同じ。野田沼干拓地に小面積で分布する。

(細粒グライ土壌)

1415 ^{ほくら} 保倉統 Hokura : グライ層は30 cm以下、土性は強粘質、斑紋があり、構造はない。

強粘質であることから湖辺に近い場所に集中して分布する。

1416 ^{はたの} 幡野統 Hatano : 構造があるほかは上記の保倉統と同じ。中主町の野田沼の上段部および近江八幡市の岡山山脚に小面積で分布する。干ばつなどにより一時的に下層まで乾燥が及ぶこともあったとみられる。

1417 ^{かわぞえ} 川副統 Kawazoe : 結核があるほかは上記の幡野統と同じ。近江八幡市牧町に分布する。

1418 ^{ちとせ} 千年統 Kkitose : グライ層は30 cm以下、土性は強粘質、斑紋があり、構造はない。

近江八幡市、安土町、中主町などの三角州低地で地下水位が低下しつつあるところ、または、佐久良川沿いに集中して分布する。このほか丘陵地の谷間または山脚部に点在して分布する。

1419 ^{あそうず} 浅津統 Asouz : 構造があるほかは、上記の千年統と同じ、

五個荘町、栗東町および、日野町および蒲生町の佐久良川沿いの場所に分布する。

1421 ^{にいやま} 新山統 Niiyama : おおむね30 cm以下がグライ層で、土性は壤質、斑紋があり、構造がない。

河川に近く、やや地下水位が高い場所に分布し、中主町、竜王町でややまとまって認められる。

1423 ^{やわた} 八幡統 Yawata : おおむね30 cm以下がグライ層で、土性は砂質、斑

紋がある。

小中の湖干拓地、大中の湖干拓地、津田沼干拓地、水茎干拓地、および湖岸の砂堆地に集中して分布する。

(グライ土壌、下層有機質)

1428 米里統 Yonesato : 上層50cm以内に厚さ20cm以上のグライ層があり、土性は強粘質で、80cm以内に20cm以上の泥炭層を含む。

大中の湖干拓地、安土町常楽寺、および八日市市上平木町に分布する。

⑦ 黒泥土壌 (muck soils)

1505 今の浦統 Imanowra : 上層50cm以内に厚さ20cm以上泥炭層を持ち土性は強粘質、下層は無機質でグライ層である。

津田沼干拓地および水茎干拓地の一部に分布する。

⑧ 泥炭土壌 (Peat soils)

1601 長富統 Nagatomi : 全層または作土を除くほぼ全層が泥炭層よりなる。

小中の湖干拓地に分布し、ほかの土壌統との境界部は泥炭層は薄くなる。

2-3 畑地土壌統

① 黄色土壌 (Yellow soils)

(細粒黄色土壌、斑紋あり)

1014 蓼沼統 Tadenuma : 主要土層は黄色もしくは黄褐色で、土性は強粘質で斑紋がある。

竜王町山之上および日野町山本新田の洪積世の丘陵地畑に分布する。ここでは土色が黄色と黄褐色が混在する。

1021 氷見統 Himi : 主要土層の土色は黄色または黄褐で、土性は強粘質または粘質、30cm以下60cm以内で、砂礫層または礫層となり、斑紋がある。

竜王町山之上の丘陵畑に分布する。

② 灰色低地土壌 (Gray Lowland soils)

(灰色低地土壌、斑紋なし)

1334 姫島統 Himejima : 主要土層の土色は灰色または灰褐色、土性は砂質で斑紋がない。

日野川下流の畑地に分布し、土色は灰褐色で、表層に斑紋はない。

参 考 文 献

農林省農産園芸局（1969）：地力保全対策要綱

松板泰明（1969）：本邦水田土壌の分類に関する研究、農技研報告書B20号
155～349

国土庁土地局（1975）：縮尺20万分の1土地分類図（滋賀県）

滋賀県農業試験場（1966～1976）：水田および畑地土壌生産性分級図

滋賀県農業試験場（1963～1971）：施肥改善事業調査研究成績書

農業技術研究所（1977）：土壌統の設定基準および土壌統一覧表

（滋賀県農業試験場 澤 重 孝）

V 土地利用現況

V 土地利用現況

本図幅は、県のはぼ中央部に位置し、愛知川、日野川、野洲川によって形成された扇状地や三角州からなる湖東平野および湖南平野の低地が拡がり、これを取り囲むようにして島状の山地が散在し南部には、古琵琶湖層群によって構成される丘陵地が展開するという変化に富む、地域である。本図幅の土地利用現況について農地、都市村落、林地、湖沼およびその他に区分して見て行くことにする。

1 農 地

図幅の中央部から北部にかけて湖東平野、西北部は、湖南平野の一部の農地が拡がっている。大部分が水田であり、畑地は一部丘陵地に見られる程度である。

この地域は、近江盆地の穀倉地帯であり稲作にとって比較的良好な土壌に恵まれている。近年広範囲にわたって土地改良事業が行われている。作物は、水稻（近江米）が中心であるが、近年全域的に大豆、麦等の穀物、八日市市地方の葉タバコ、野菜類、竜王町の花きが目につくところである。又、日野町・八日市市地方では、乳牛、肉用牛の飼育、近江八幡市では養豚、竜王町では鶏卵の生産も見られる。

経営耕地面積

区分 市町村名	市町村 面積 (A)	経営耕地			耕地率 (B/A)	
		面積 (B)	田	畑		樹園地
近江八幡市	7,653 ^{ha}	34,033 ^{ha}	3,264 ^{ha}	132 ^{ha}	7 ^{ha}	44.5%
八日市市	5,319	2,344	2,262	73	9	44.1
野洲町	4,043	1,227	1,170	49	8	30.3
竜王町	4,456	1,318	1,255	52	11	29.6
蒲生町	3,477	1,220	1,182	35	3	35.1
安土町	2,454	1,210	1,178	31	1	49.3
能登川町	3,125	1,616	1,574	42	—	51.7
五箇荘町	1,636	526	502	19	5	32.2
愛知川町	1,299	615	596	18	1	47.3
秦荘町	2,503	964	927	29	8	38.5

区分 市町村名	市町村 面積 (A)	経営耕地 面積 (B)	経営耕地			耕地率 (B/A)
			田	畑	樹園地	
湖東町	2,635	1,167	1,130	36	1	44.3
愛東町	4,155	1,006	909	44	53	24.2
日野町	11,813	2,201	2,069	109	23	18.6
水口町	6,877	1,605	1,517	47	41	23.3
甲西町	5,528	726	685	24	17	13.1
石部町	1,328	161	156	4	1	12.1
栗東町	5,302	1,053	1,019	29	5	19.9
守山市	4,388	2,259	2,121	131	7	51.5
中主町	2,082	1,309	1,209	98	2	62.9
計	80,073	25,930	24,725	1,002	203	32.4
滋賀県	334,223	57,260	53,469	2,819	972	17.1

資料：建設省国土地理院「昭和55年全国都道府県市区町村別面積調」
滋賀県企画部「1980年世界農林業センサス結果報告書」

2 都市、村落

- 中央を横断する東海道本線沿いに駅を中心とした市街地が形成されている。代表的なものとして西から守山、野洲、および城下町である近江八幡がある。又、私鉄近江鉄道のターミナルに八日市の市街地がある。これらの市街地の周辺には、全域に亘って農村集落が分布している。特に近年都市化の影響を受けて東海道本線沿いに新興住宅団地が急増している。
- 商業地は、これらの市街地に各々形成されているが、商業圏は、守山・野洲の湖南圏・近江八幡圏および八日市圏に分けられる。また近江八幡市、五箇荘町は「近江商人」発祥の地として町の一部に往時の面影を残している。
- 工業地域は、昭和40年代の高度成長期に、守山市野洲町周辺湖東の国道8号線沿い、八日市市周辺、甲賀地域の国道1号線沿い、および甲西町の丘陵地帯に多くの工場立地が行われている。
- その他この地域は、史跡の宝庫であり、代表的なものとして、我国最古の石造層塔のある石塔寺、万葉歌碑のある蒲生野一帯近江源氏佐々木六角氏の居城跡、

観音寺跡、織田信長の居城跡、安土城跡、豊臣秀次の居城、八幡城跡、太郎坊宮等があり、景勝地として近江八幡・安土の水郷、野洲町の三上山等がある。

3 林 地

本林地は、中小盆地の丘陵地と島状山地からなっており農地や集落地と隣接している。

植生はアカマツを中心とした天然生林が大半を占めており、林地の生産力は全体的にみて一般に低い。

人工林は長命寺山、三上山の国有林において面積的にまとまったヒノキ林がみられるほかは、中小盆地の谷筋にごく小面積単位に植林されている程度である。

このような生産力の低い林地であることからゴルフ場、工場敷地などへの林地開発がみられる。

林 野 面 積

(単位: ha)

区分 市町村名	総 数	国 有 林 面 積 〔官 行 造 林〕	民 有 林 総 面 積	樹 種 別			竹 林	無 立 木 地		
				計	針 葉 樹	広 葉 樹		未 立 木 地	更 新 困 難 地	伐 採 跡 地
近江八幡市	1,499	686 (-)	813	688	540	148	114	7	3	1
八日市市	991	- (-)	991	931	864	67	38	21	-	1
野洲町	1,276	241 (-)	1,035	966	900	66	49	15	5	-
竜王町	1,736	127 (-)	1,609	1,554	1,485	69	33	7	7	8
蒲生町	1,006	- (-)	1,006	902	858	44	67	19	3	15
安土町	480	- (-)	480	453	416	37	20	6	1	-
能登川町	261	79 (-)	182	146	130	16	23	9	1	3
五箇荘町	510	- (-)	510	473	376	97	9	24	1	3
愛知川町	27	- (-)	27	21	5	16	5	1	-	-
秦荘町	940	- (-)	940	894	780	114	29	5	2	10
湖東町	710	- (-)	710	687	544	143	12	7	1	3
愛東町	2,373	- (-)	2,373	2,307	1,627	680	13	21	2	30
日野町	6,289	- (-)	6,289	5,924	4,727	1,197	82	191	19	73
水口町	2,840	- (-)	2,840	2,683	2,486	197	42	107	6	2
甲西町	3,076	- (-)	3,076	2,978	2,739	239	37	13	31	17
石部町	764	- (-)	764	717	668	49	12	16	17	2
栗東町	2,495	453 (-)	2,042	1,948	1,823	125	43	21	22	8
守山市	51	- (-)	51	13	11	2	37	1	-	-
中主町	35	- (-)	35	18	17	1	16	1	-	-
計	27,359	1,586 (-)	25,773	24,303	20,996	3,307	681	492	121	176
滋賀県	205,284	17,278 (996)	188,006	179,862	104,026	75,836	1,766	4,039	1,521	818

資料：滋賀県農林部「昭和55年度林業統計要覧」

4 湖 沼

本図幅内には、北西に琵琶湖の一部が顔をのぞかせており、その東側に現在では、県下最大の内湖である。「西の湖」がある。西の湖の沿岸には、未だ^{よし}葦地が残っており、周辺は水郷である。西の湖では淡水真珠の養殖が行われている。

日野川三角州の先端には、かつては、大小の内湖が残っていたが、戦後の食糧増産政策に沿って、小中の湖、水茎内湖および大中の湖が干拓によって農地化されている。

5 その他（人工改変地）

この地域の林地が市街地に近接し、又、生産力も低いことから他用途に人工的に改変されてきた。工場団地、住宅団地、文化公園、ゴルフ場等である。名神高速道路の通過や、高度経済成長の影響を受けたものであるが、特にゴルフ場は自然環境の悪化や地域の環境保全、防災等影響が大きく、今後、土地利用上抑制されるべきであろう。

（滋賀県企画部土地対策課）

1983年3月 印刷発行

土地分類基本調査

近江八幡

編集発行 滋賀県企画部土地対策課
滋賀県大津市京町4丁目1-1

印刷 株式会社 武揚堂
東京都中央区日本橋3-8-16